

# 板 木

群馬県へき地教育研究資料第60集

平成24年3月

群馬県教育委員会  
群馬県へき地教育研究連盟  
群馬県へき地教育振興会

# 板 木

群馬県へき地教育研究資料第60集

## 序



へき地教育資料「板木」は、その歴史が古く、へき地教育連盟発足の年である昭和27年から発刊が始まり、今年度で第60集の刊行を迎えることができました。へき地に学ぶ子どもたちのシンボルであった板木（始業などの時刻を知らせるためにたたく板）と題するこの資料は、へき地教育の着実な歩みそのものであり、手に取ってみると、へき地教育の重さを感じます。あらためて、へき地教育の振興に御尽力いただいた多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝を表したいと思えます。

さて、新学習指導要領が告示され、小学校においては今年度から、中学校においても平成24年度に全面実施となります。今回の改訂においては、これまでの理念を継承し、「生きる力」の育成が目標として掲げられております。

群馬県教育委員会といたしましても、本県の目指す教育の実現に向けた取組として、平成23年2月に実施した県独自の学力調査の結果分析資料を作成いたしました。さらに、この結果分析から見えた課題の解決に向けて各学年で必ず身に付けさせたいこと、そのために必要な指導の基本を教科ごとに示した指導資料も作成しております。また、この指導資料では、学習面だけでなく、心や体の面からも群馬の子どもに身に付けさせたいことを示しており、これらの資料の活用など、様々な施策を通して「生きる力」の育成に努めていきたいと考えております。

一方、へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、多くの施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助など多くの施策を推進しております。

こうした中、へき地教育にかかわる先生方の御尽力により、各へき地学校においては、地域の環境を生かした特色ある教育が日々実践されております。特に自然に恵まれた地域の豊かな教育環境を生かした体験活動や児童生徒一人一人の個性や可能性を生かしたきめ細かな指導など、温かな人間関係に支えられ、地域に根差した教育は、これからの時代を拓く子どもたちにまさに必要とされる教育であり、その意味で今後一層へき地教育が重視されるべきものであると考えております。

このように、へき地教育の着実な充実に向けた先生方の御尽力に感謝申し上げるとともに、今後群馬県のへき地教育が更に発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力していきたいと思えます。

最後になりますが、ここに、へき地教育研究資料「板木」第60集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

平成24年3月

群馬県教育委員会

教育長 福島 金夫

## 「板木」第60集の刊行に寄せて



現代社会においては、少子高齢化の急速な進行や人とのつながりの希薄化、高度情報化社会の進展や不登校、いじめ問題等、子どもたちを取り巻く環境の変化は、時代を経るごとにスピードを増しています。このような変化の激しい現代社会においては、一人一人の人間が主体的・創造的に生き抜くことが必要であり、そのために、次代を担う子どもたちには、「生きる力」を育むことが求められております。この「生きる力」については、新しい学習指導要領の中でも、基礎・基本を確

実に身に付け自ら課題を見つけよりよく問題を解決する資質や能力、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」の育成を重視すると述べられています。

現在、へき地学校においては、地域社会との密接な連携のもと、地域がもつ豊かな自然環境や子どもたち一人一人の個性を生かした特色ある教育活動が積極的に展開されております。このような教育環境の中で、子どもたちは「生きる力」を確実に身に付けております。このことは、へき地教育に献身的に取り組まれている先生方や地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

さて、群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育にかかわる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、へき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げていることに対し、心より感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の方々が中心となって、本県のへき地学校で行われている特色ある教育等をまとめた「板木」第60集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状や課題を明確にし、今後のへき地教育の一層の振興を図る上で意義深いものと考えます。また、この「板木」は、平成20年度から県のWebページ上でも公開されております。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を日々の教育活動に十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せてのあいさつといたします。

平成24年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 星野 已喜雄

## 「板木」第60集の発刊にあたって

「板木」が第60回の発刊になりました。今年は、群馬県へき地教育研究連盟が結成されて60年目にあたります。

つまり、「板木」の歴史は群馬県のへき地教育の歴史でもあります。今年度も多くに方々にお世話いただき、へき地教育の充実・振興の貴重な資料として発刊できたことに改めて感謝申し上げます。

また平素より、県教育委員会、県へき地教育振興会には、へき地教育にご支援・ご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

この「板木」はへき地学校の経営、学習指導、生徒指導に関することと今年度開催された県または全国研究大会報告が主な内容です。県内のへき地学校では、それぞれの学校の特色を生かした学校経営を行ったり、きめ細かな学習指導や生徒指導を実践したりしています。

へき地校の特色の一つに、地域との連携がまずあげられます。県へき地教育研究連盟の研究主題「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成」の「ふるさとでの学び」の土台になるのが地域との連携です。

へき地学校では、国語、算数等の教科や生活、総合学習等の学習活動の中に「ふるさとでの学び」を取り入れ、子ども達は、身近なふるさとに、興味関心を示し積極的に学習を行います。

それには教科等の特性を考え、どのように「ふるさと」を教材として子ども達に体験させたり、課題をもたせたりすることが、教師としての大切な仕事です。またへき地校としての子どもの生活面の長所や短所を明らかにしながら、子ども達の心身の成長を支援する生徒指導をどう実践していくかも大切なことです。

「板木」は、へき地校の素晴らしい学校経営や学習指導・生徒指導を紹介することで、県内のへき地校の先生方に役立つ資料となっています。

また、県研究大会や全国研究大会では、へき地教育研究の根本である「授業研究」が中心です。日々の授業をどうするのか、へき地の特性を生かしてどのように工夫するのか、授業研究は教師にとって最も重要なことです。

研究大会では、様々な工夫を取り入れた授業を参観しその後研究協議が行われます。協議では、教師の発問や子どもの反応、教材や教具について等が話し合われます。参加者にとっては新しい発見があったり、自分の実践を見直したりする貴重な時間です。参加された方の報告は、貴重な資料として、日々の授業づくりのヒントになると思います。

平成26年度には全国大会が群馬県で開催されます。県内のへき地校で授業研究を中心にした分科会が行われます。全国から集まるへき地校の先生方が参加して良かったという全国大会にしたいものです。来年度から本格的な準備が始まります。ぜひ、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

最後に、第60集発刊にあたり執筆や編集に携わった先生方に心よりお礼を申し上げるとともに、ご指導ご支援いただいている県教育委員会及び県へき地振興会ははじめ、関係の皆様へ深く感謝を申し上げ、発刊にあたっての挨拶といたします。

平成24年3月

群馬県へき地教育連盟

理事長 水出 正一

# も く じ

## 序 文

県教育委員会教育長

県へき地教育振興会長

県へき地教育研究連盟理事長

## 第 1 部 へき地教育の振興

### I 変貌するへき地の学校

安中市立上後閑小学校の閉校	-----	1
安中市立上後閑小学校（前）校長	瀧澤 邦夫	
高崎市立倉渕東小学校の閉校	-----	2
高崎市立倉渕東小学校（前）校長	住谷 孝明	
高崎市立倉渕中央小学校の閉校	-----	3
高崎市立倉渕中央小学校（前）校長	伊勢川 聰	
高崎市立倉渕川浦小学校の閉校	-----	4
高崎市立倉渕川浦小学校（前）校長	松田 猛	
甘楽町立第三中学校の閉校	-----	5
甘楽町立第三中学校（前）校長	井上 優	
みなかみ町立幸知小学校の閉校に思う	-----	6
みなかみ町立幸知小学校（前）校長	原澤 和弥	

### II へき地の学校経営

地域の教育力を生かした学校経営	-----	7
片品村立片品南小学校長	梅澤 克之	
社会性の育成を目指す学校経営	-----	9
南牧村立南牧中学校長	服部 幸雄	

### III 学習指導の改善に関する実践的な研究

自らの生活に目を向け、進んで健康づくりに取り組む子どもの育成	-----	1 1
～よりよい食生活を目指した活動を通して～		
嬭恋村立鎌原小学校長	山口 廣	

### IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小学校 家庭・地域と連携した積極的な生徒指導	-----	1 3
安中市立細野小学校長	長谷川 好江	
〈2〉 中学校 規律ある学習・生活習慣を図るために	-----	1 5
草津町立草津中学校長	市村 隆宏	

## 第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

### I 平成23年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長 ----- 17

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

### II 第60回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要 ----- 18

〈2〉提案要旨

《小学校1班》

ふるさとの自然環境を生かした、豊かな感性を育む学校経営 ----- 19

～緑の少年団活動を中心とした取り組みを通して～

下仁田町立西牧小学校長 並木 伸一

《小学校2班》

一人一人が生き生きと輝いている学校をめざして ----- 20

～小規模校及び地域の特色を生かして～

沼田市立平川小学校長 高橋 和広

《中学校班》

教師力の向上を目指した研修の充実 ----- 21

～教師の学び合える校内研修を目指して～

高山村立高山中学校長 森村 淳史

〈3〉公開授業・授業研究会

①神流町立万場小学校 ----- 22

②上野村立上野小学校 ----- 26

③神流町立中里中学校 ----- 28

④上野村立上野中学校 ----- 30

### III へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽） ----- 32

〈2〉Bブロック（吾妻） ----- 33

〈3〉Cブロック（利根・沼田・渋川） ----- 34

### IV 第60回全国へき地教育研究大会（北海道大会）

〈1〉概要報告 上野村立上野中学校長 飯出 哲夫 ----- 35

〈2〉分科会報告

B分科会 伝え合う力を高める教育活動の工夫 ----- 36

～国語科を中心とした豊かな言語活動を通して～

下仁田町立西牧小学校教諭 飯野 邦子

C分科会 自ら学び、自ら考える生徒の育成 --- 37

～一人ひとりの考えを生かす授業を通して～

東吾妻町立坂上中学校教諭 山田 浩昭

D分科会 確かな学力を身につけ、豊かな心で主体的に行動できる児童生徒の育成 --- 38

～小中連携教育の推進を通して～

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

E分科会	進んで学び、考えを深める子どもの育成 ～小規模校における個に応じた算数科指導を通して～ 孺恋村立田代小学校長 水出 正一	--- 3 9
F分科会	発想を豊かに創意工夫し、主体的に活動する子どもの育成 ～体育科・運動領域を通して、 自分たちの学習を高め合う授業の工夫～ 片品村立片品北小学校長 小林 仁史	----- 4 0
G分科会	思いを豊かに表現する子の育成 ～一人一人に視点をあてた説明文の読解指導を通して～ 中之条町立六合小学校教諭 黒岩 洋一	----- 4 1
H分科会	自分の思いや考えをもち、伝え合うことのできる子どもの育成 ～自らの言葉で、豊かに表現する子を目ざして～ 群馬県教育委員会義務教育課指導主事 中村 宏基	----- 4 2
I分科会	お互いを認め、高め合う人間関係の育成 ～学級活動を中心とした取り組みを通して～ 片品村立片品中学校教諭 高山 誠	----- 4 3

《資 料》

I	平成23年度へき地学校資料 -----	4 4
II	平成23年度群馬県へき地教育振興会役員 -----	4 7
III	平成23年度群馬県へき地教育研究連盟役員 -----	4 8
IV	平成23年度群馬県へき地教育センター指導員 -----	4 9
V	平成23年度へき地教育功労者 -----	5 0
あとながき -----		5 1



第60回全国へき地教育研究大会  
(北海道大会)全体会



第60回全国へき地教育研究大会  
(北海道大会)第1分科会



# 第1部

## へき地教育の振興



群馬県へき地教育研究大会 開会式



群馬県へき地教育研究大会 研究協議  
小学校1班



群馬県へき地教育研究大会 研究協議  
小学校2班



群馬県へき地教育研究大会 研究協議  
中学校班

# I 変貌するへき地の学校

## 安中市立上後閑小学校の閉校

安中市立上後閑小学校（前）校長 瀧澤 邦夫

### 1 学校の特色ある教育活動

安中市立上後閑小学校は、平成 22 年度末で閉校となり、後閑小学校と統合しました。昭和 31 年に分校から、安中町立上後閑小学校として開校して以来 55 年。卒業生は、500 余名となります。上後閑小学校は安中市の北西部に位置し、後閑川や小名沢川が学校のすぐ横を流れ、山々に囲まれた環境豊かな場所にありました。しかし、地域の人口減・少子化等の中で、最大で 139 名の児童数も近年は 10 人台となり、閉校の年には 7 名と県内最少人数の学校となってしまいました。

昭和 59 年に制定された校章には、野鳥の図が刻まれています。これには野鳥がたくさん生息する自然環境の中で学び、鳥のように大きく羽を広げて羽ばたいてほしいという願いを込め図案化されました。県の愛鳥モデル校としても長く指定されていました。保護者や地域の人々の学校教育への期待は高く、9 月に行われる運動会には地域の方々がたくさん応援にきて、児童の一輪車の演技、地元八木節保存会の指導のもとに演技する踊りなどに声援を送ってくれました。また、「ふれあい集会」（児童と地域の方とが交流する行事）や、全校児童でハンドベル演奏や合唱を披露する安中市小中音楽発表会の参加などを通して、一人一人の活躍の場を保障する活動が位置づけられていました。さらに、自校給食と、児童職員が講堂に集まって食べる全校会食など、家庭的な雰囲気の中で児童が学校生活を送ることができました。

平成 20 年から児童にとってよりよい教育条件の確保という点から検討が進められましたが、保護者や地域の皆さん、卒業生の苦渋の選択の結果、後閑小学校への統合ということになりました。



上後小校章

### 2 沿革概要

- |              |                                   |
|--------------|-----------------------------------|
| 明治 6 年 10 月  | 上後閑村満行寺に後閑西小学校として創立               |
| 明治 24 年 6 月  | 上後閑梶山に二階建て校舎を新築                   |
| 明治 29 年 10 月 | 後閑第二小学校として独立校となる                  |
| 大正元年         | 後閑尋常高等小学校上後閑分校となる                 |
| 昭和 10 年 9 月  | 大水害のため、校舎階下埋没の大被害を受ける             |
| 昭和 31 年 4 月  | 碓氷郡安中町立上後閑小学校として、再び独立校となる         |
| 昭和 33 年 11 月 | 市制施行により安中市立上後閑小学校と改称              |
| 昭和 43 年 8 月  | 集中豪雨により大被害を受ける                    |
| 昭和 48 年 7 月  | プール完成                             |
| 昭和 50 年 2 月  | 市指定国語（作文指導）研究発表会開催                |
| 昭和 57 年 10 月 | 愛鳥モデル校として県指定を受ける（以後、閉校するまで指定を受ける） |
| 昭和 59 年 10 月 | 校章の制定（募集により小鳥の姿が刻まれた校章が決定する）      |
| 昭和 60 年 11 月 | 鉄筋三階建て校舎に生まれ変わる                   |
| 昭和 63 年 12 月 | 市同和教育研究発表会を開催（学びあい学習を発表）          |
| 平成 17 年 4 月  | 体育館が竣工する                          |
| 平成 18 年 11 月 | 開校 50 周年記念式典を実施する 市学力向上推進中心校研究発表  |
| 平成 21 年 4 月  | 自校給食から、後閑小学校からの給食運搬方式に変更となる       |
| 平成 23 年 3 月  | 閉校式（4 月から後閑小学校と統合）                |

# 高崎市立倉渕東小学校の閉校

高崎市立倉渕東小学校（前）校長 住谷 孝明

## 1 はじめに

倉渕町は高崎市の北西に位置する、人口約4700人ほどの小さな町です。豊かな自然に恵まれ、山と青空がどこまでも続き、学校の近くには烏川が悠々と流れています。

本校は、昭和39年に三ノ倉小学校と水沼小学校が統合して倉渕村立東小学校として開校し、平成18年には市町村合併により、高崎市立倉渕東小学校に校名が変わりました。校庭には「青雲の志」と刻まれた石碑や大きな鯉が泳ぐ「すだちの池」があり、児童に志を高くして夢に向かって努力して欲しいと願う地域の期待が感じられます。地域の方や保護者の教育への関心は高く学校に協力的です。



道祖神ウォークラリー

開校当時、14学級、395名在籍していた児童数は年々減少し、平成22年度には72名（本年度より2・3年生は複式学級、特別支援学級1、計6学級）です。平成23年度から、倉渕町の3小学校（倉渕中央小、倉渕川浦小、倉渕東小）は統合して、校名が「倉渕小学校」になります。児童は、素直で明るく、挨拶や返事がよくできます。恵まれた自然の中で、異学年交流や体験学習を積み重ね、「豊かな人間性」や「確かな学力」、「心身の健康や体力」を育み、「生きる力」を培ってきました。この素晴らしい地域に誇りをもって、大きな夢や希望に向かってこれからも努力し続け、活躍することを期待しています。地域が一体となって子どもたちの健やかな成長を支えていこうとする風土は倉渕東小学校の誇りであり、これからも「倉渕小学校」に引き継がれていくことでしょう。

## 2 特筆すべき活動

### (1) 読書活動のあゆみ

昭和63年に県立図書館の「親子20分間読書運動」の指定校となり、読書習慣や読書の魅力、親子の対話等を目的に読書活動に取り組んできました。平成元年に、PTA会長を中心に「倉渕読み聞かせの会」が設立され、その後、22年間途切れることなく「朝読書」や「読み聞かせ」を継続し、平成20年には、「読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰」を受賞しました。統合後もこの伝統を受け継ぎ、主体的に読書に取り組んで欲しいと願っています。

### (2) 体力づくりと健康教育の充実

平成19・20年度に、高崎市教育委員会より「健康教育」の研究指定を受け、運動、食事、睡眠等の基本的な生活習慣を見直し、自分の課題をとらえ、改善策を追求して健康な体づくりに主体的にかかわっていこうとする児童を育ててきました。各教科や領域等における健康教育に関連した学習指導を充実させ、学校保健委員会を工夫し、PTAや家庭との連携を図って、自ら生活を改善できるよう支援してきました。研究指定が終了しても、「自ら心と体をきたえるたくましい子」を重点目標に掲げ、児童が意欲的に取り組む体育科指導の工夫や体育集会、業前活動の充実を図って基礎体力の向上に努めてきました。



体育集会(サーキットトレーニング)

## 3 おわりに

倉渕東小学校は閉校になりますが、記憶は永遠に残り、地域とともに歩む学校として、「倉渕小学校」に引き継がれます。統合して児童数が増え、新たな出会いが待っています。この素晴らしい倉渕をいつまでも大切に、地域を支える立派な人に成長することを祈っています。

# 高崎市立倉渚中央小学校の閉校

高崎市立倉渚中央小学校（前）校長 伊勢川 聰

## 1 はじめに

本校は、明治6年権田校として開校以来、旧倉渚村時代までに幾多の統廃合を重ねてきた。昭和40年に、旧権田小学校と岩氷小学校とが統合し、倉渚村立中央小学校が開校した。この中央小学校は、旧倉渚村が、平成18年1月に高崎市に合併したことにより、高崎市立倉渚中央小学校となり、現在に至っている。

学校に連綿と流れる教育の根幹は、「反哺」（幼鳥が成長後に親鳥の恩に報いる親孝行の心）の精神である。これは当時の倉渚村が、県下に先駆けて実践してきた人権（同和）教育の基盤にも通じるものである。倉渚村時代には、本校に教育研究所が置かれ、村内の幼・小・中の学校教育の先進校としての役割を担ってきた。文部省や群馬県から幾多の研究指定校を受け、学校をあげて教育研究に取り組んできた長い歴史のある学校である。

全校児童数は、昭和40年当時300人を数えていたが、近年は減少を続け、平成20年度に2・3年生が複式学級となり、閉校直前の平成22年度は、6学級64人となっていた。

## 2 学校の沿革（概要）

- ・明治6年 東善寺にて権田校として開校
- ・明治8年 岩氷に反哺校開校
- ・大正13年 権田校校舎新築落成
- ・昭和22年 倉渚村立権田小、鳥渚村立中部小（後の岩氷小）と名称変更
- ・昭和30年 倉田・鳥渚両村が合併し、倉渚村となる
- ・昭和40年 岩氷小・権田小と統合し、中央小学校となる 横須賀にて第1回臨海学校開設
- ・昭和43年 プール完成
- ・昭和44年 校歌制定、発表会開催
- ・昭和46年 新潟笠島臨海学校に参加
- ・昭和47年 文部省同和教育研究発表会開催
- ・昭和59年 横須賀との友好交流事業として臨海学園を実施 開校110周年記念式典
- ・平成5年 文部省へき地教育研究発表会開催
- ・平成18年 高崎市との合併により倉渚中央小学校となる
- ・平成19年 浦安市との交流により「浦安環境学習」を実施
- ・平成23年3月 倉渚3小学校の統合により閉校式を実施



## 3 おわりに

本校は、幕末の偉人「小栗上野介」の菩提寺である隣接の東善寺にて権田校として開校以来、明治・大正・昭和・平成と約130有余年の長きにわたり、倉渚町内の教育の中心として、住民に愛され教育実践を積み重ねてきた。

平成23年度からは、倉渚東小・倉渚川浦小と統合し、本校舎で「倉渚小学校」となったが、地域に根ざした教育の歴史と伝統は、今後も統合した倉渚小学校に引き継がれていくことになる。

# 高崎市立倉渕川浦小学校の閉校

高崎市立倉渕川浦小学校（前）校長 松田 猛

## 1 はじめに

川浦小学校は明治7年1月に川浦村120番地の樋口清太郎氏宅を仮校舎として開校しました。当時は、川浦学校と称し、児童数は41名でした。

川浦小の特色は緑の少年団を中心とした自然の中での体験活動にあり、それを通して豊かな心と、郷土に対する誇りを持つことによって、たくましい「川浦っ子」を育てることを目標にしてきました。川浦の森での様々な活動や花木の栽培、ウサギの飼育、サマーキャンプで小鳥の巣箱作り、野外活動での愛鳥学習や巣箱掛け、田んぼのリンクでのスケート学習など、保護者と地域の皆様に支えられて、心に残る活動を続けてきました。

この度、児童数の減少により倉渕の3小学校が統合され、新たに倉渕小学校が開校するに当たり、平成23年3月31日をもって閉校となりました。

## 2 沿革概要

川浦小学校は明治7年の開校後、明治18年に第102学区川浦尋常小学校、同20年に第144学区川浦小学校、同23年に鳥渕尋常小学校西分校、同26年には鳥渕西部尋常小学校、同34年鳥渕西部尋常高等小学校となりました。開校間もない明治14年には、勝海舟が霧積温泉の帰りに立ち寄り、「川浦学校」と揮毫してくれました。

明治の末から大正・昭和にかけて敷地や校舎を拡張し、昭和16年には鳥渕西部国民学校となったのです。終戦後の昭和22年に鳥渕村立西部小学校、同30年に倉渕村の成立に伴って倉渕村立川浦小学校となり、完全給食も始まりました。県教育委員会より同32年には学校給食優良学校表彰、同34年には学校給食研究指定を受け、研究発表を行いました。

昭和40年には校歌「あゝ川浦の小学生」がつくられ、同44年にプールが完成し、同46年から柏崎市の笠島臨海学校に参加しました。同49年には盛大に開校100周年の記念式典が挙行されました。また、同52年には県植樹祭が倉渕で開催され、本校の鼓笛隊が参加したことが縁で、県より、「緑の少年団」第1号として指定を受けました。これ以後、愛鳥モデル校として鳥獣保護活動を行ったり、緑を守り・育てる活動を進めたりし、環境大臣表彰や林野庁長官賞、県環境教育賞など多くの賞を受けました。



## 3 おわりに

川浦小学校の地域の皆さんは、学校に対してとても協力的で、子どもと学校のためにと積極的に活動していただき、地域で作り上げた最後の大運動会は大いに盛り上がりました。かつて、学校はみんなの集う場であり、地域の中心、心の拠り所でありましたが、まさに、川浦小学校に遺された「当直日誌」からもこのことがわかります。

現在、統合小である倉渕小学校に倉渕の小学生が全員通学しています。一人一人がお互いを認め合い、大いなる希望を持って、たくましく成長してくれるよう願っております。

# 甘楽町立第三中学校の閉校

甘楽町立第三中学校（前）校長 井上 優

## 1 はじめに

本校は、県の南西部に位置し、鐺川の支流雄川と赤谷川の合流地点に位置し、周囲を山に囲まれた山間地にある。以前は、こんにゃくの栽培や花卉を主とした農業と林業で生計を立てる家庭が多かったが、近年は、多くが町内や隣接する富岡市等の企業に勤めている。

昭和 22 年 4 月、秋畑村立秋畑中学校として、学級数 3、生徒数 177 名で開校した。最大 272 名在籍した生徒も昭和 54 年度 100 名を割り一時生徒数が増加するが、再び減少を続け、22 年度は 24 名となった。多くの有為な人材を世に送り出した本校もその責任を果たし、閉校となった。

## 2 学校の沿革

昭和 22 年 4 月	秋畑村立秋畑中学校開校（秋畑小学校、農業会付属建物で開始）
25 年 3 月	新校舎落成
26 年 5 月	校庭整備第 1 期工事
27 年 7 月	校庭整備第 2 期工事
30 年 3 月	小幡町との町村合併により小幡町立秋畑中学校となる
34 年 2 月	小幡町、福島町の一部と新屋村が合併し、甘楽町となる 甘楽町立秋畑中学校となる
36 年 4 月	甘楽町立第三中学校と校名を変更する 6 月 校章制定
43 年 11 月	愛校歌を校歌として制定 (作詞 神道 登氏 作曲 斉藤 友二氏)
45 年 1 月	体育館完成 10 月 校旗制定
49 年 8 月	ソフトテニス個人 全国大会へ出場
52 年 4 月	群馬県教育委員会より「社会福祉協力校」の指定を受ける
57 年 8 月	全国中学校ハンドボール大会男子 8 位入賞
平成元年 5 月	新校舎（鉄筋 3 階建）移転 記念事業として「立志の塔」建立
2 年 10 月	関東駅伝競走大会 男子 10 位入賞
4 年 4 月	群馬県教育委員会より「体力づくり実践推進校」の指定を受ける
7 年 11 月	ボランティア活動模範校にて群馬県知事表彰を受ける
8 年 11 月	第 1 回「秋畑ふれあい文化交流会」実施
10 年 4 月	女子バレーボール部廃部となる
12 年 4 月	ハンドボール部廃部となる 9 月 インターネット接続工事
18 年 10 月	群馬県へき地教育研究大会開催
23 年 3 月	甘楽町立第二中学校との統合に伴い閉校

## 3 おわりに

沿革誌を改めて読み深めると、保護者の皆さんをはじめ地域の皆様の学校教育に対する深い理解と支援に支えられた 64 年間であったことに感謝の気持ちでいっぱいです。校舎建設やその後の教育環境整備事業、部活動での全国大会、関東大会への出場等に当たっての皆様方のご支援は、「おらが学校」「地域の子は地域で育てる」という意識が地域全体に根付き息づいていればこそなせることであり、地域の学校教育に対する期待の大きさでもあります。さらに、生徒に真剣に向き合い取り組んできた教職員の努力が受け継がれた成果とも考えます。地域に根付いた、地域と共に歩んできた特色ある学校が、また、一つ消える。時代の流れとはいえ残念でなりません。

# みなかみ町立幸知小学校の閉校に思う

みなかみ町立幸知小学校（前）校長 原澤 和弥

## 1 はじめに

「秋はもみじに 湯のかおり 冬は白銀 雪の原 谷川岳をまのあたり 歌の流れるこの窓は  
思い出なつかし 幸知小」

これは幸知小学校の校歌三番の歌詞です。今にして思えば、ほんとうに懐かしい限りです。幸知小学校の子ども達は、小さな口をいっぱいにかけて一人一人が大きな声で歌います。私はこの校歌を聴いたとき、この歌は、いつ、誰が、どんな時に歌うのだろうか。と思ったものです。学校をなつかしむのは、卒業生なのか、地域の方なのか、それとも今の私たちなのか。不思議な歌詞ではありましたが、もう今後この校歌を聴くこともないとなると寂しいです。

平成19年度に創立100周年の記念行事や記念誌を発行し、一区切り付けたところです。地域の方を招いての「ミニ講話」を今年度も行いました。幸知小学校の歴史や当時の学習内容、遊びなど多岐にわたって多くの方が語ってくれました。どの話も貴重で有り難く、子ども達は熱心に耳を傾けていました。学校を大切に守り、育ててきてくれた思いが伝わってきました。

## 2 沿革概要

- 明治41年 湯桧曾・綱子の尋常小学校合併
- 明治42年 新校舎落成
- 大正14年 高等科併置により幸知尋常高等小学校となる
- 昭和7年 講堂新築
- 昭和16年 水上村立幸知国民学校と改称
- 昭和20年 水上村立幸知小学校と改称
- 昭和22年 町制施行により水上町立幸知小学校となる
- 昭和35年 校旗、校歌制定、50周年記念式典挙行
- 昭和49年 教育課程研究全国大会県代表 親子20分間読書推進校
- 昭和52年 県スポーツ少年団スキー大会アルペン種目総合優勝
- 昭和53年 町内学童スキー大会アルペン・距離の全種目優勝（児童数126名）
- 平成元年 新校舎落成（児童数73名）
- 平成17年 町村合併によりみなかみ町立幸知小学校となる
- 平成18年 豪雪のため災害派遣要請 自衛隊来校 体育館屋根補強工事完了
- 平成19年 県へき地教育研究大会授業研究会開催  
幸知小学校開校100周年記念式典挙行



## 3 おわりに

幸知小学校は、へき地の小規模校です。私は、教師になったらこのような学校に勤務したいと思っていましたが、その夢が叶い嬉しく思っていました。子ども達はもちろん、保護者や地域の方があたたかく、協力的で、何事にも学校を信じてくれていました。学校行事には家族全員が参加し、一生懸命に取り組んでくれました。特にプール清掃は、消防団も参加し、ぴかぴかに磨いてくれました。青い水で子ども達が気持ちよさそうに泳いでいたのが印象的です。

私が平成20年度に赴任した時は、児童数44名で、すでに統廃合の話が進んでいました。あとは時間の問題でした。保護者も子ども達もこの問題に揺すぶられて、不安定な時期もありましたが、平成22年度が最後の年度であるとなり、最後の年を大切に過ごそう、と何事にも落ち着いて取り組めるようになりました。最後の運動会は地域と共に思い出に残る運動会ができました。

水上小学校との統合で、スクールバスでの登下校、大勢の仲間との交わりなど、子ども達は新しい世界に飛び込んでいきます。子ども達に幸あれ、と祈っています。

## Ⅱ へき地の学校経営

### 地域の教育力を生かした学校経営

片品村立片品南小学校長 梅澤 克之

#### 1 学校の概要

本校は、武尊山の南東部に広がる標高 800 m の高原にあり、四季の変化に富んだ美しい自然環境の中にある。地域での産業は、古くは農林業中心だったが、近隣にスキー場が開設されるに伴って、民宿、ペンションなど観光業が主要になってきた。しかし、近年の客のニーズの多様化により、地域の人々は、時代の変化に対応するべく、様々な活性化策を打ち出している。

「花咲」という地名通り、地域全体で花作りを行い、学校区の各箇所に春～秋、時季に応じた花が咲きほこっている。学校でも、花壇だけでなく、数多くのプランターでも花を育て、子どもたち、そして来校者にも心の潤いを与えている。

地域住民は、学校教育に協力的であり、また、児童の健全育成にも積極的にかかわっている。このような環境の中で、本校は地域の教育力を生かし日々の教育活動にあたっている。

#### 2 学校経営の方針

小規模校の特長を生かし、一人一人を大事にした学級経営を基盤に、個に応じた指導の充実を図るとともに、地域や地域の方々とのふれあい活動をとおり豊かな心の醸成に努める。

- (1) 少人数学級を生かした確かな学力の育成
- (2) 校内研修の活性化と指導力の向上
- (3) 特別支援教育の充実
- (4) 家庭と連携した生活習慣の向上
- (5) 体育活動・行事の充実による体力の向上
- (6) 豊かな心を育むための活動の充実

#### 3 実践の概要

地域の教育力を生かし、地域に根ざした学校の教育活動を推進していくために、地域の方々の協力・支援をいただきながら、子どもたちに体験活動をさせ、社会性や豊かな心の育成に努めていくとともに、子どもに自己有用感をもたせるようにしている。

本校では、学校支援隊を組織し、各地区の役員さんを中心に学校の美化活動や栽培活動に子どもと一緒に取り組んでいる。また、学区内に高齢者の団体「武尊親和会」があり、子どもたちとの交流活動に熱心に参加していただいている。

##### (1) 学校園での植物栽培

子どもたちは、畑でのマルチ張りの方法や植物の栽培方法を学校支援隊の方から学んだり、夏休みの前後にともに除草作業に取り組んだりしながら、支援隊の方の畑を大切に作る気持ちに接して、子どもたちも作物を育てることに対して、真摯な気持ちで取り組むことができ、あわせて、勤労の大切さも実感することができている。



## (2) 学習発表会

「総合的な学習」や各教科の成果を発表し、学習を支援してくださった方たちへの感謝の気持ちを表したり、地域の人たちとの交流を深めたりすることをねらいとして、毎年、11月下旬に実施している。

各学年の発表内容は、低学年は国語や音楽の学習の成果発表、中・高学年は地域の方々にお世話になって調べた「総合的な学習」の成果発表などを行っている。保護者はもちろん、学校支援隊や武尊親和会の方々をはじめ学校の様々な活動を支援して下さ



(6年生「花咲の未来」の発表)

ったみなさんに声をかけ、例年70名ほどの参加をいただいている。参観して下さった方々が、子どもたちの一生懸命な態度や堂々とした発表に感動する場面もみられた。

## (3) ふれあい教室

3つのふれあい教室がある。事前に、各担当から企画書が出され、その企画書をもとに親和会長に参加者を募っていただき、各集会にきていただいている。また、それぞれ活動後は、児童とお年寄りが一緒に給食をとり、ふれあいを深めている。



(昔の遊び集会)

### ① 「昔の遊び集会」：低学年児童とお年寄りのふれあい

昔の話を聞いたり遊び方を教えていただいたりしている。

### ② 「なかよし集会」：中学年児童とお年寄りのふれあい

グランドゴルフのプレーを教えていただくとともに、ルールの大切さを学ぶ機会にもなっている。

### ③ 「にこにこ集会」：全校児童とお年寄りとのふれあい

古くから伝わる「とおかんや」の行事に向けてのわらでっぼうづくりを学んでいる。



(なかよし集会)



(にこにこ集会)

## 4 おわりに

地域の教育力を生かし子どもにとって価値ある豊かな体験活動を教育活動に位置づけ実践している。これらの活動をとおして、子どもたちに自分たちの住んでいる「花咲」地域への理解、愛情の醸成につながるとともに社会性を身につけることにもつながっている。さらに、地域と連携することにより、子どもたちの登下校をはじめとした地域での安全確保の面でも有効に作用している。今後も「地域の中の学校」として学校・家庭・地域が連携協力し、子どもたちの成長を図っていきたいと考える。

# 社会性の育成を目指す学校経営

南牧村立南牧中学校長 服部 幸雄

## 1 本校の概要

本校は、群馬県の南西部に位置する山々に囲まれた自然豊かな南牧村にある。本村は、産業構造の変化に伴う人口の流出が著しく、高齢者比率が非常に高い状況にある。また、児童生徒数の減少に伴い小中学校の統廃合が漸次行われ、平成17年度から本校が村内唯一の中学校となっている。



本年度の全校生徒数は31名で、3学級の小規模校である。保護者や地域の教育に寄せる期待は大きく、学校に対してたいへん協力的である。生徒は、明るく素直で、学校生活の様々な場面で真面目に熱心な取組をするが、小規模集団で固定的な人間関係になりがちであるため、より意識的に「社会性の育成」に取り組むことが学校課題となっている。

## 2 学校教育目標

基本目標 共に学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成

具体目標 ○進んで学習や読書に取り組む生徒 ○互いに認め合い協力する生徒  
○目標に向かって努力する生徒

## 3 学校課題

「価値ある体験を重ね 社会性の基礎を育成する」

## 4 学校経営の方針（要約）

- (1) 職員の協働体制による教育目標の達成及び学校課題の解決に向けた教育活動の推進
- (2) 「生きる力」をバランスよく育む教育課程の編成・実施・評価及び表現力の伸長
- (3) 心身の健康とよりよい生き方を志向する豊かでたくまし人間性の育成
- (4) 教育課程と生徒指導の一貫性に視点をあてた「小中学校間連携」の推進
- (5) 情報の双方向の交換及び外部評価や地域の教育力の活用による開かれた学校づくり
- (6) 教育環境の整備と危機管理意識・危機回避能力の育成による安全で活力ある学校経営

## 5 実践の概要

- (1) 学校課題の解決に向けた協働体制の確立

### ①教育目標の共通理解の徹底と人事評価の活用

学校教育目標「共に学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成」について、職員に対しては、人事評価における目標設定の際に反映させるとともに、生徒、保護者に対しても朝礼や集会、学校通信等で「主体性や社会性」の視点から経営方針等を説明し、共通の意識をもって学校づくりに取り組めるように努めている。

### ②校内研修の活性化を通して

「校内研修等充実支援事業」（西部教育事務所）を活用し、指導主事の指導を受けながら授業づくりや研修の質的向上に取り組んでいる。特に、一人一研究授業と計画訪問、代表授業、経験者研修等の研究授業との関連を図り、研修主題「課題解決に向け、自分の考えを適切に表現できる生徒の育成 ～説明の場面を工夫した授業改善を通して～」の達成を目指している。

授業研究会では、ワークショップ形式を取り入れ、教師一人一人が分担した観察結果を発表



(授業分析を発表する教師)

し授業分析を行うとともに、研修テーマに迫るための手立ての有効性を検証するようにしている。表現力の育成は、生徒の社会性をはぐくむための基盤であることを共通理解しながら、学びの自立を目指した授業改善に取り組んでいる。

## (2) 他者との関係性を学ぶ体験活動

### ①総合的な学習の時間での体験学習例

1年では、「環境・福祉」をテーマに、地域の環境調査、林業体験学習、福祉体験学習に取り組んでいる。身近な環境を守るための活動や高齢者との触れ合いを通して、地域や他者とのつながりを考えるようにしている。

2年では、職場体験学習を核とした「生き方」を考える学習に取り組んでいる。事前・事後の学習にバルーンアーティストやそば職人などを講師に迎え、職業の意義やその人の生き方に触れる学習を設定し、望ましい勤労観や職業観の育成に努めている。



(1年生の林業体験)

### ②自主的・自治的活動を促す取組例

10月に保護者、地域の方々を招き授業公開とともに「学習発表会」を開催している。学習発表会では、生徒会を中心に全校生徒による手作りでの準備、運営を指導・支援している。当日は、総合的な学習での学びや研究発表、英語スピーチ、和太鼓、合奏、全校合唱などが発表された。

発表・展示作品とともに、人や社会とのつながりや自己の生き方を見つめる内容が多くみられ、参観者からもよい評価を得ている。



(そば職人から学ぶ)

### ③地域社会との結びつきを強める取組例

本村では、役場の企画情報課が担当するケーブルテレビ「なんもくふれあいテレビ」により、生徒の活動を中心とする学校の様子が随時放映されている。このため、地域への教育活動の情報発信が効果的になされ、学校への理解や協力が得られやすい環境となっている。

また、村内の団体「むらおこし花の会」のカタクリの花の保護活動や「花いっぱい運動」の環境美化活動について理解を深めることやボランティア活動への参加は、生徒にとってよい経験となるとともに、地域社会の一員としての自覚を高める機会にもなっている。



(和太鼓の演奏)

## 6 おわりに

個の自立を図るとともに、他との関係性や関わりを学ぶための体験活動の充実は、本校の生徒に「社会性」を育成していく上で必要不可欠である。

小規模校の特長を生かし、今後さらに、生徒一人一人の特性に応じた活躍の場の設定と道徳の時間を核とする道徳的実践力の向上を目指すことにより、生徒が自信をもち、集団生活を営むことができる「社会性」を身に付けられるよう、学校経営の充実・改善に努めたいと考える。



(花いっぱい運動への参加)

### Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

## 自らの生活に目を向け、進んで健康づくりに取り組む子どもの育成

～よりよい食生活を目指した活動を通して～

嬭恋村立鎌原小学校長 山口 廣

#### 1 学校の概要

本校は、嬭恋村の南東に位置し、浅間山北面の裾野の一大高原にある山村の小規模校（男子 51 人、女子 53 人、計 104 人、各学年 1 学級、特別支援学級 2 学級、計 8 学級）である。鎌原地区の大部分の土地は、水はけのよい火山灰地が広がり、主として高原野菜の耕地として利用されている。歴史的に見ると、天明 3 年の浅間山の大噴火により全区民の 85 %もの尊い命が奪われた悲劇の村でもある。地域住民は、教育に対する関心が深く、学校に対しては極めて協力的である。

#### 2 主題設定の理由

昨年度から、本校を含む嬭恋村東部地区 3 校は、群馬県教育委員会より二カ年間の健康教育総合推進事業の指定を受けた。そして、3 校の統一研究主題を「自らの生活に目を向け、進んで健康づくりに取り組む子どもの育成」とした。

本校では、これを受け、「生活習慣チェックリスト」の集計結果や各学年の児童の実態から「食生活」に着目した。「生活習慣チェックリスト」の集計結果では、食事の項目において「好き嫌いは少ない方だ」「スナック菓子やカップ麺を食べることは少ない」の詳細項目に落ち込みが見られる。また、一日 3 回の食事をしている児童が多いという結果が得られたが、各学年の児童の様子から食事の内容や食べ方に課題が見られる。更に、野菜嫌いや偏食傾向の児童も見られる。

そこで、自分の食生活に目を向けさせ、よりよい食生活を目指した活動を通して、統一研究主題に迫ることとした。

#### 3 実践の概要

本校では、研究主題に迫るために 3 つの班で研究を進めた。

調査研究班	・児童の実態を把握・分析し、食生活に関する課題を明らかにする。 ・食に関する全体計画を見直すと共に、年間指導計画を作成する。 ・食に関する環境整備及び委員会活動を行う。
授業研究班	・食生活に関わる授業（活動）を計画し、実践する。
家庭・地域連携班	・他部会の実践を家庭や地域に啓発する。 ・家庭や地域との連絡・調整をする。

##### (1) 調査研究班の主な取組

調査研究班は「食に関するアンケート」を学期 1 回、年 3 回実施し、児童の変容を把握・分析し、課題を明らかにした。「食に関するアンケート」は、食に関する指導の手引（平成 22 年 3 月文部科学省）で例示されている食に関する指導の内容を参考に①食の重要性、②心身の健康、③食品を選択する能力、④感謝の心、⑤社会性、⑥食文化の 6 ポイントを明らかにする内容とした。

そのアンケート結果をもとに、全体計画の見直しや本校独自で授業研究班と協力して作成した「食に関する指導の目標と教科等の関連」の内容を検討することができた。

##### (2) 授業研究班の主な取組

授業研究班では、調査研究班より提案された「食に関する指導の目標と教科等との関連」について、低学年・中学年・高学年の単元や題材の配列を見直した。特に、児童自らが自分の食生活を見つめ直し、よりよい食習慣を身に付けることを目指し、「心身の健康」に視点を当て、1年生から6年生まで学級活動の中で系統的な授業を行った。



1年生の授業



3年生の授業



5年生の授業

### (3) 家庭・地域連携班の主な取組

家庭・地域連携班では、家庭や地域と協力、連携した活動を推進し、家庭や地域においてもよりよい食生活が定着するように取り組んできた。内容は以下のとおりである。

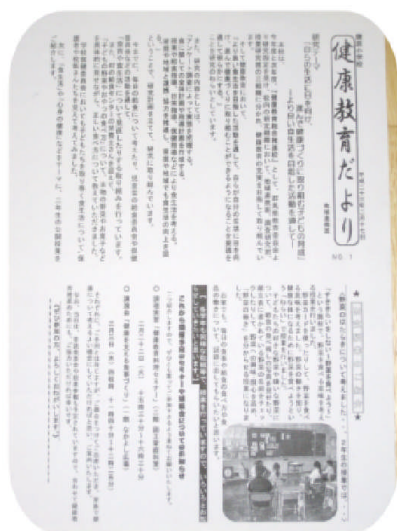
- 「健康教育だより」の発行やWebページによる発信
- 講演会やセミナーなどの計画・実施
- 調査研究班と授業研究班の実践を家庭や地域に啓発
- 家庭や地域との連絡・調整



収穫祭



講演会



健康だより

## 4 まとめと今後の課題

- 「食に関する指導の目標と教科等の関連」にそって、給食や家庭での実際の食事を教材に学年に応じた授業を実施したことは、児童が自分の生活に目を向ける機会となった。
- 食に関するアンケートを実施し、児童の実態を明確にしたことで、課題に応じた授業を展開したり、日常の指導に活かしたりすることができた。
- 栄養バランスや赤・黄・緑に分類した食品の三つのグループについて学習したことが児童間の話題になるなど、食に関する知識量も増し、食の大切さを理解することにつながった。
- 「健康教育だより」の発行とともに、授業参観で食に関する授業を行ったり、授業のワークシートに保護者の感想を記入してもらったりするを通して、学校での取組が家庭で話題になったりするようになった。
- 今後も系統的・組織的に食育を推進していくために、「食に関する指導の目標と教科等の関連」の見直しを図るとともに、指導案や教材についてもさらに改善し、活用できるようにしていく必要がある。

## Ⅳ へき地学校における生徒指導の実践

### 〈1〉 小学校

## 家庭・地域と連携した積極的な生徒指導

安中市立細野小学校長 長谷川 好江

### 1 地域・学校の概要

本市は、平成18年に安中市、松井田町が合併し、新生「安中市」として誕生した。本校はその北西部に位置し、近くには、史跡「仙が滝」、天然記念物の「庚申桜」、「福寿草の自生地」や「ろうばいの郷」等があり、四方に浅間山、妙義山を眺望する風光明媚な豊かな自然環境の中にある。

学校の周辺は松井田北中学校、郵便局、ふるさとセンター（細野地区生涯学習センター）、駐在所、細野保育園等があり、地域文化の拠点に位置している。そのため、隣接するふるさとセンターや中学校と連携した特色ある教育活動が数多く行われている。

本地区は、かつて純農村地区であったが、現在では専業農家はわずかで、ほとんどが兼業である。主に祖父母が農業を営み、保護者の多くは勤めに出ている。学校行事やPTA活動への関心は高く学校へ協力的で、地域の教育力にも恵まれている。

本校は児童数83名、教職員数16名（マイタウンティーチャー、英語活動支援員、図書司書、理科支援員を含む）の小規模校である。児童は素直で学習や諸活動に真面目に取り組むことができる。異学年集団による縦割り班活動が多く取り入れられ、子どもたちは学年を越えて交流し、上級生が下級生の面倒をよく見ることができる。

### 2 生徒指導の方針

#### (1) 基本的な考え方

本校は、「児童一人一人のよさや可能性を生かしながら、それぞれの人格のより良い発達を目指すとともに、学校生活が充実したものにさせるよう指導・支援する。」ことを生徒指導の基本的な考え方としている。

#### (2) 生徒指導の努力点

上記の基本的な考え方を受け、次のような努力点を設定した。

- よく考え、自分で判断し、約束や決まりを守って行動できる「自己指導能力」を身に付けた児童の育成に努める。
- 日常の授業において、「自己決定」「自己存在感」「共感的な人間関係」の生徒指導の三つの機能を生かした積極的な生徒指導に努める。
- 家庭と連携しながら、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けた児童の育成に努める。
- 教育相談等により情報を共有化し、家庭・地域と連携した生徒指導に努める。
- いじめ、不登校等の早期発見・早期対応に努める。

### 3 実践の概要

本校では生徒指導の努力点に立った積極的な生徒指導に取り組んでいるが、その中から家庭・地域と連携した取り組みについていくつか記してみる。

#### (1) 基本的な生活習慣の育成～ノーメディアにちょうせん～

長時間テレビを見たり、テレビゲームに夢中になったりして、生活のリズムを崩している児童が見受けられたことから、「メディアたいさくを始めよう」をテーマに学校保健委員会を開催した。3～6年児童、教職員、保護者、学校医、学校薬剤師が参加して本校児童のテレビやゲームについてのアンケート結果の発表、テレビやゲームが心身に与える影響についての寸劇に

続いて、児童は、ノーメディアに挑戦するための計画を立てた。その間、保護者として取り組むメディア対策について話し合い右のような考えをまとめた。その後、学校保健委員会で話し合われたことを全家庭に配布し、ノーメディア週間を設定し、全家庭がノーメディアに取り組んだ。

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 子どもの健やかな成長を図るために<br>～親として取り組むメディア対策～ |
| 1 ゲームは時間等のルールを決めて約束する。               |
| 2 食事中はテレビを消す。                        |
| 3 テレビに大切な時間が取られないように工夫する。            |
| 4 ルールは子どものストレスがたまらないように工夫する。         |

## (2) 家庭学習習慣の確立～学びステップアップ週間～

児童一人一人に家庭学習習慣を身に付けさせるとともに、家庭学習の内容を充実させることを目指して、6月と10月に「学びステップアップ週間」を実施している。児童は学年×10分を目標の学習時間とし、テレビを消して集中して学習に取り組もうとしている。また、「家庭学習の手引き」を使って、家庭学習の内容や方法について各学年の発達段階を考えて学級指導を行っている。この取り組みにより、「自分から進んで勉強に取り組むようになった。」「テレビを消して勉強するようになった。」「前日に学習の準備をし、忘れ物が少なくなった。」等の保護者の感想が聞かれた。子どもたちも「学びステップアップ週間」をきっかけにテレビを消して集中して学習に取り組んだり、自主学習を工夫したりするなど、家庭学習に意欲的に取り組むようになってきている。今後も、家庭の協力を得ながら、内容を工夫して継続していきたい。

## (3) 言語活動の充実～読み聞かせ支援隊～

積極的な生徒指導を充実させていくために、児童相互の好ましい共感的な人間関係を育てることはきわめて大切である。本校の児童は幼い頃から同一のメンバーで過ごしており、言わなくてもわかり合うという安心感もあり、多くのことを語らず過ごしている。そのためコミュニケーション能力が十分に育っていないという課題が見られる。そこで学校では各教科や領域で共感的な人間関係を育てていくために、コミュニケーション能力を育てるための言語活動の充実に取り組んでいる。その活動の一環として「読み聞かせ支援隊」による読み聞かせ活動の協力をいただいている。保護者を中心とした12名のボランティアの皆さんが計画から実施まで自主的に運営し、木曜日の朝、各学級で数多くの絵本や紙芝居の読み聞かせをしている。子どもたちは読み聞かせをととても楽しみにしている。

## (4) 細野地区児童・生徒健全育成連絡協議会

学校・家庭をはじめ細野地区関係団体相互の連絡を密にして、児童・生徒の健全育成推進に資することを目的に、「細野地区児童・生徒健全育成連絡協議会」を年1回開催している。組織は北中学校・細野小学校（校長・教頭・生徒指導主任）、北中・細小PTA、細野教育後援会、細野保育園、青少年育成補導委員会、区長会、交通安全協会、少年補導員、駐在所警察官、生涯学習指導員、子ども育成会長、社会体育協会細野支部長、消防団14分団長、民生・児童委員、少年野球代表、少女ソフト代表、市議会議員、教育環境委員で構成されている。本会議で健全育成に関わる情報交換をしたり、啓発活動（講演会、映画会等）をしたり、地域への呼びかけ（挨拶運動・環境浄化運動等）について話し合ったりしている。細野の子どもたちの健全育成のために、地域を挙げて支援していこうという気風が脈々と受け継がれている。

## 4 おわりに

児童一人一人に自己指導能力を身に付けさせるために、学校では積極的な生徒指導に努めるとともに、家庭・地域との連携・協力した生徒指導を一層進めていきたい。

## 〈2〉中学校

# 規律ある学習・生活習慣を図るために

草津町立草津中学校長 市村 隆宏

### 1 地域・学校・生徒の実態

草津町は、標高 1200 m に位置し、年間約 300 万人の観光客が来町する温泉観光地である。町にはいくつかの源泉があり、pH 2 前後の酸性の強い温泉で殺菌力が強い。自然も豊富で、白根山や本白根山のコマクサの群生など景勝地も多い。冬には、草津国際スキー場も営業する。

本校保護者の多くは、観光に関する職業に携わっている。また、古くから地元で生活する保護者の他に、仕事を求めて来町した保護者も多く、仕事の時間、仕事の形態も様々である。そのため、保護者とすれ違いが多い生徒もおり、夜を子どもだけで過ごす家庭も見受けられる。朝食を取らずに来る生徒、忘れ物の多い生徒など基本的な生活習慣が身に付いていない生徒もおり、精神的に不安定な生徒も少なくない。

また、生徒は小さい頃から、一生懸命働いたお金で遊びに来ているお客様の姿を見ており、その客を一生懸命接待する地元の大人も見ている。したがって、大人のまねや大人びた行動をしたがる生徒も少なくなかった。現在は、職員の共通理解と地域の協力により、生徒の問題行動はほとんどなく、生徒は前向きに学校生活を送っている。

### 2 今年度の生徒指導の方針と努力点

#### (1) 方針

- ① 授業における生徒指導の充実に努める。
- ② 基本的行動様式の確立をめざし、個別指導の徹底を図る。
- ③ 集団活動の中で、個に応じた自主的活動ができ、責任ある行動がとれる生徒を育てる。
- ④ 家庭地域や諸機関との連携を密にし、理解と協力を得られるよう努める。

#### (2) 努力点

- ① 生徒と教師、生徒と生徒の人間的なふれ合いを重視した継続的な指導援助を行う。
- ② 規範意識を高揚するため、家庭・地域社会と連携を図り、組織的に取り組む。
- ③ 学習環境を整えるとともに、授業中の生徒指導、生徒の言語活動を促進する。
- ④ 問題傾向をもつ生徒の早期発見と信頼を基盤とした適切な指導を行う。
- ⑤ 教育相談活動や生徒理解に努め、学級経営の充実や人間関係の改善を図る。

### 3 具体的な取組

《規律ある学習・生活習慣を図るために》

これまで、草津中学校の生徒の生活の中には、きまりがあるのに守れていないことやきまりがはっきりしないことなどがあった。それに対して、教職員の共通理解が難しく、指導も曖昧になってしまう点が見られた。また、授業中の生徒の取組や姿勢も教科によって様々であった。

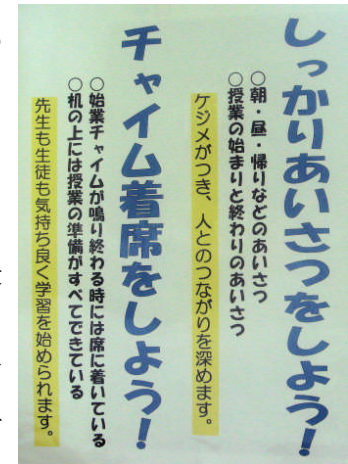
そこで、学校生活や授業中の生徒指導について校内研修でも取り上げて取り組んできた。きまりに対する生徒の理解が深まると同時に教職員のきまりに対する共通理解や生徒への指導の一貫性が高められるように以下の取組をしてきた。

#### (1) 校内研修での取組

- 昨年度から校内研修で生徒指導を中心に取り組み、今年度は、昨年度の取組を継続すると共に授業中の生徒指導の充実に努めるよう進めた。
- 生活面での取組



- ・「あいさつの重要性」「職員室の入り方」「服装を整える意味」「集会時の行動」「時間を守った行動」に焦点化した。
- ・掲示物を作成し、各教室、特別教室等に掲示し、いつでもどこでも話題にできるよう心がけた。
- ・掲示と同時に校長や生徒指導主事で分担して、全校生徒への呼びかけをし、生徒と教職員全員の共通理解を図った。



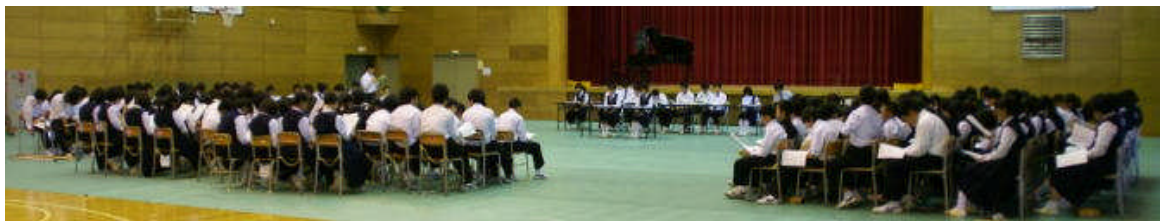
教室等の掲示物

○ 授業中の取組

- ・授業では、「チャイム着席」「始業・終業のあいさつ」「指名時の返事」「発表するときの言葉遣い」に焦点化した。
- ・この取組を徹底するように、朝礼で全校生徒に知らせ、生徒と教職員が共に意識した取組ができるようにした。
- ・校内研修としては、「やる気をもたせる授業」づくりをテーマにしたので、「生徒がやる気をもつ」ための授業改善の工夫を実践し、代表授業で研修した。

(2) 生徒会としての取組

- 日常生活について本部が事前に全校生徒に提案し、昨年度は、「あいさつ」「身だしなみ」「言葉遣い」「休み時間」「下校」をテーマに、今年度は、「あいさつ」「清掃」「下校」をテーマに各クラスで話し合った。その結果を生徒総会で発表し合い、意見交換をした。
- 昨年度の生徒会本部役員は、朝、生徒玄関にて「あいさつ運動キャンペーン」期間を設け、実践した。今年度の本部役員は、生徒会で話し合われた結果を基に、ポスターを作成し、校内に掲示して生徒に呼びかけた。



生徒総会の様子

(3) 保護者、地域社会との連携

- 生徒（生徒会本部役員）、保護者（PTA本部役員）、教職員（代表）で年に2回、三者協議会を開き、現在の取組状況について話し合う場を設けている。
- 保護者や地域の方々の協力を得やすいように、学級通信、学年通信、学校通信を利用して、学校の取組の様子をできるだけ多く知らせよう努力している。

(4) その他の取組

- 定期的で開催している生徒指導主事を中心とした生徒指導委員会では、現在は主に不登校傾向の生徒と特別な支援を必要とする生徒についての話題が中心となっているが、ここでも、生徒指導上の細かいきまりや確認事項等についても検討している。
- 職員の共通理解の徹底を図るために毎月の職員会議では、必ず最初に各学級の生徒指導関係の報告から入りにしている。（緊急なものは朝会で報告）
- 小学校6年生への説明会を利用し、現在中学校で取り組んでいる生徒指導面や授業中のきまりを知らせ、中学校生活への心構えをつくらせる。
- 小学校との連携については、今後さらに連携の方法を考え、中1ギャップの起こりにくい中学校生活になるようにしていきたいと考えている。

## 第 2 部

### へき地学校教員研修のあゆみ



群馬県へき地教育研究大会  
万場小 2年 算数



群馬県へき地教育研究大会  
万場小 6年 外国語活動



群馬県へき地教育研究大会  
上野小 3年 国語



群馬県へき地教育研究大会  
上野中 2年 音楽



群馬県へき地教育研究大会  
中里中 1年 理科



群馬県へき地教育研究大会  
授業研究会 上野小

# I 平成23年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

## 1 平成23年度へき地学校教育

平成23年度の県内へき地学校は、休校中の2校を含め52校、児童生徒数4,250名、教職員数590名である。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の2.5%で、昨年と比べると学校数は5校減、児童生徒数で151名の減、教職員は66名減員した。

昨年度は、へき地教育振興法施行規則の一部改正による級地の見直しが行われ、結果として県全体では学校数・児童生徒数・教職員数とも増加したが、今年度は学校統合によって、学校数・児童生徒数・教職員数とも大きく減少した。そのため、地域によっては活動が危ぶまれるところも出てきた。へき地教育研究連盟としては、へき地の学校の小規模の利点や、地域との密接な連携を生かし、子どもたちに「生きる力」を身につける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

## 2 活動方針

(1) 研究主題 「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成」

(2) 活動方針

- ① 本連盟は、県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携・協力を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
- ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
- ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連携・親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3) 活動内容

- ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。
- ② へき地教育ブロック別実践研究集会等を開催し、研究実践を深め、へき地教育に携わる教職員の資質向上を図る。
- ③ へき地教育研究大会を県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資する。
- ④ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

## 3 研究・研修の概要

(1) へき地教育ブロック別実践研究集会の開催

- Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽） 8月5日（金）：講演会、現地研修会
- Bブロック（吾妻） 8月10日（水）：全国へき地教育研究大会報告、講演会
- Cブロック（利根・沼田・渋川） 8月9日（火）：講演会、現地研修会

(2) 第60回全国へき地教育研究大会北海道大会への参加 10月13日（木）～14日（金） 8名参加

(3) 第60回群馬県へき地教育研究大会 11月9日（水） 多野郡開催 全体会：コイアイランド会館  
授業公開：万場小学校、中里中学校、上野小学校、上野中学校

(4) 広報「県へき連」第70号・71号の発行

(5) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第60集発行

## II 第60回 群馬県へき地教育研究大会

### 〈1〉概要

- 1 趣 旨 へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。
- 2 大会テーマ ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成  
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～
- 3 期 日 平成23年11月9日（水）
- 4 会 場 【開会行事・全体会・班別研究協議】 神流町コイコイアイランド会館  
【公開授業・授業研究会】 神流町立万場小学校（小学校 低・高学年）  
上野村立上野小学校（小学校 中学年） 神流町立中里中学校（中学校）  
上野村立上野中学校（中学校）

### 5 日 程

9:30	9:50	10:20	11:00	12:10	13:00	13:30	14:30
受付	開会行事 (ホール)	全体会 (ホール) ・全へき連、 関プロ、 県へき連等 報告確認	班別研究協議 (各会場) ・小学校Ⅰ班 ・小学校Ⅱ班 ・中学校	昼 食 憩 (体育館) 移 動	受付 (午後)	公開授業 ・万場小学校 ・上野小学校 ・万場小学校 ・中里中学校 ・上野中学校	授業研究会 ・小学校低学年 ・小学校中学年 ・小学校高学年 ・中学校(1年) ・中学校(2年)
		10:55				14:15(20)	16:00

### 6 班別研究協議

	司 会	提 案	記 録	世 話	指導助言	場 所
小学校Ⅰ班	甘楽：南牧中 校長 服部 幸雄	甘楽：西牧小 校長 並木 伸一	甘楽：秋畑小 校長 池田 隆郎	多野：上野小 校長 新井 秀一	西部教育事務所 指導主事 井上 高広	ホール 2階
小学校Ⅱ班	利根：武尊根小 校長 片山 雅資	沼田：平川小 校長 高橋 和広	利根：片品南小 校長 梅澤 克之	利根：片品北小 校長 小林 仁史	利根教育事務所 指導主事 中島 潔	ツバ 2階
中学校	吾妻：孺恋東中 校長 中沢 雅紀	吾妻：高山中 校長 森村 淳史	吾妻：六合中 校長 小野塚則幸	吾妻：岩島中 校長 森田由紀夫	吾妻教育事務所 指導主事 小池 裕生	和室 2階

### 7 公開授業

会 場	教科等	学年	単元・題材名	指導者	場 所
万場小学校 (低・高学年)	算 数	2	かけ算	教諭 古橋 和明	2年教室
	外国語活動	6	行ってみたい国を紹介しよう	教諭 平岩 美希	図書室
上野小学校	国 語	3	すがたをかえる大豆	教諭 茂木 潤平	3年教室
中里中学校	理 科	1	気体の性質	教諭 加瀬 健	理科室
上野中学校	音 楽	2	合唱「COSMOS」	教諭 齋藤 香理	音楽室

### 8 授業研究会

会 場	司 会	記 録	指導助言	場 所	
万場小 (低・高 学年)	算 数	甘楽：秋畑小 校長 池田 隆郎	多野：万場小 教頭 黒澤 守	中部教育事務所 指導主事 後藤 弘史	会議室
	外国語 活動	高崎：宮沢小 校長 住谷 孝明	高崎：倉渕小 校長 伊勢川 聡	吾妻教育事務所 指導主事 小池 裕生	図書室
上野小	国 語	安中：細野小 校長 長谷川好江	甘楽：西牧小 校長 並木 伸一	利根教育事務所 指導主事 中島 潔	図書室
中里中	理 科	高崎：倉渕中 校長 原田 和之	甘楽：南牧中 校長 服部 幸雄	西部教育事務所 指導主事 井上 高広	学習室
上野中	音 楽	安中：松井田北中 校長 今井 典之	安中：坂本小 校長 有坂 俊人	西部教育事務所 指導主事 丸山 尚子	音楽室

## 〈2〉提案趣旨

### 《小学校1班》

## ふるさとの自然環境を生かした、豊かな感性を育む学校経営

～緑の少年団活動を中心とした取り組みを通して～

下仁田町立西牧小学校長 並木 伸一

### 1 学校の概要

本校は、下仁田町の中心地より、10km程西へ入った長野県境の山間に位置している。大正時代から昭和33年頃までは500人を超える児童数であったが、過疎化が進んでいる。現在児童数36名で、1・2年と3・4年が複式学級となっている。今年度末をもって閉校となり、町内4校が統合し平成24年度から1校となる。平成19年度から県鳥獣保護計画に基づく愛鳥モデル校の指定を受け、「緑の少年団」が中心となって、それに関わる活動を継続してきている。

### 2 実践の概要

#### (1) 緑の少年団活動について

本校の「緑の少年団」の歴史は古く、群馬県では、昭和52年に最初3団体が結成され、その中で第1期生である。現在は児童数が減少しているため、全校児童が団員となり自然を守るための活動が中心となっている。(環境美化活動、環境学習活動、レクリエーション活動)

#### (2) 豊かな感性を育む環境教育の実践について(各学年の取り組み例)

##### ○1・2年…「自然史博物館」の見学・ほたる山公園校外学習・動物ふれあい教室

友だちと協力することや生き物や自然と親しんだり、町の良さに気づいたり、公共施設の利用を通してルールやマナーを守ったりすることの大切さを身に付ける目的で実施している。

##### ○3・4年…「ぐんま昆虫の森」・「こどもの国」校外学習・尾瀬学校

学校での体験活動の補充・深化・発展的学習として、身近な生き物探しや、生命や環境保護の大切さに気づき、豊かな感性を育むための環境学習を実施している。

##### ○5・6年…ふるさと登山(物語山・荒船山)

身近な美しい自然に触れ、西牧のすばらしさを知ることや、心身を鍛えることを目的に、地域の物語山と荒船山に隔年で登山をしている。



〔ふるさと登山〕

#### (3) その他における環境教育の取り組み

##### ○PTA廃品回収活動・奉仕活動・校舎内外の清掃

保護者や児童が中心となり、地域の人の協力を得てルートを決めて能率的に廃品回収を行っている。奉仕作業は、校舎内の高窓ガラスや蛍光灯の清掃、校庭の遊具の整備、不用物の撤去等を行っている。

##### ○スクールサポートボランティアによる活動

35名のボランティアが名簿登録している。自主的に校舎周辺や土手、裏山の草刈をしてもらったり、生活科におけるツルを使ったリース作りや竹細工作りに協力してもらったりしている。

### 3 まとめと今後の課題

本校における環境教育の取り組みで、「緑の少年団」を中心として、本物にふれたり直接体験を通して、動植物に対して優しさや思いやりを持った心豊かな児童の育成につなげることができた。校長としての関わりでは、自然環境の豊かな地域の特色を生かして、地域の協力や関連施設との連携を計画的、積極的に図る取り組みができたと考える。

また、平成24年度からは町内4小学校が統合され1校となる。地域に密着した特色ある環境教育活動が、新しい学校で今後どのように生かされるかが課題である。

## 《小学校 2 班》

# 一人一人が生き生きと輝いている学校をめざして

～小規模校及び地域の特色を生かして～

沼田市立平川小学校長 高橋 和広

### 1 学校の概要

本校のある利根町（旧利根郡利根村）は、平成17年2月の市町村合併により沼田市に編入した。四方を1300<sup>m</sup>から2400<sup>m</sup>の山々に囲まれ、町の南部は赤城山の北斜面になっている。町の西部を流れる片品川には、国天然記念物に指定されている吹割瀑や吹割溪などがあり、豊かな自然や温泉を求め、訪れる観光客も多い。本校は、この平川地区にあり、今年度の児童数は63名である。親子三世代で生活する家庭が多く、保護者の学校教育への理解や協力しようとする意識は非常に高い。また、地域にあっては学校を大事にする風潮が色濃く残り、教育への関心も高い。

### 2 実践の概要

#### (1) 主題設定の理由

本校の学区は一つの行政区であることから、地域で学校を大事にする意識が強い。児童は明るく素直であるが、たくましさに欠ける面がある。学校や地域の特色を生かし、児童に自信や誇りを持たせることが重要であると考え、本主題を設定した。

#### (2) 実践の内容

##### ① 地域素材の教材化

～5年総合的な学習の時間「レッツトライ米作り」（40時間）～

地域の方から300<sup>m<sup>2</sup></sup>の田を借用し、あらかき、くろかき、くろぬり、田植え、稲刈り、脱穀等の一連の作業を行う。指導者は地域ボランティア・老人会員。収穫された米は、収穫を祝う会で餅つき用に使う他、全校児童が家庭に持ち帰る。また、姉妹校5年生全員に贈っている。

稲作りをとおして、稲作りの知恵や農業の大切さに気づくとともに、家族や姉妹校から称賛や感謝されることから、自分たちが大きな取組をしているという自信を得ている。

##### ② 音読・学習発表会、児童作品の展示

音読・学習発表会は、朝の集会行事として行っている。内容は、本の朗読や自分の考えや体験談を自由に発表するなど多様であるが、事前に担任が点検し、しっかり発表できるよう指導しておくことで、発表の成功体験や達成感を味わわせている。

また、作品を鑑賞する力を高める目的で、教科等で作成した作品を積極的に廊下やホールなど教室の外に展示し、誰からも見られるようにしている。児童の励みにもなっている。

##### ③ あいあい交流（市内小学校姉妹校提携：市教委施策）

市内中心地区にある沼田北小学校と姉妹校提携を結び、学年単位で教科や総合的な学習の時間等で残した作品、教師作成の通信等を交換している。また、陸上記録会や水泳大会では互いに声援をおくり、健闘を讃えあっている。学校規模や地域環境の違いを乗り越え、互いの良さや特色に触れ、学び、自信を深めることができる。

### 3 まとめと今後の課題

よい校風は、児童を主人公にした教育活動が十分にされ生まれると考えている。山間部にある学校の児童は、引っ込み思案でたくましさに欠けていることが多い。「すばらしい力を持っているのに・・・。」という声を聞くことがある。もしかすると、それは我々教師が気がつかないうちに町場にある学校と同様な教育を施し、児童の力を上手に導き出せていないのかもしれない。自分自身に問いながら今後も、一人一人が生き生きと輝いている学校づくりを進めたい。

## 《中学校班》

# 教師力の向上を目指した研修の充実

～教師の学び合える校内研修を目指して～

高山村立高山中学校長 森村 淳史

### 1 学校の概要

一村一校の学校であり、全生徒が高山小より入学する。生徒は高山村の全地区より徒歩または自転車で通学するが、最近は保護者の送迎による通学も多くなり体力面で不安な部分も出てきているため、自力通学を強力に推し進めている。本校は、各学年1学級または、2学級の小規模校だが、生徒は素直であり、あいさつもしっかりできる。

本校は人事上のへき地校でへき地誓約による若手の教員や、初任2年目等若い教員も多く職員室は活気がある。

職員室での会話は活発で生徒についての情報交換はよく行われている。また、教職経験の多い教員が若手の教員の面倒をよく見ている。

### 2 実践の概要

#### (1) 校内研修での取り組み

- 「自分の思いを表現できる生徒の育成 一言語活動の充実を目指した手立ての工夫」を主題とし、公開授業（一人一授業）、計画訪問等を活用した教員による授業参観や効果的な指導を行うための生徒の実態の把握と方策の策定、学級実態を把握する調査（C&S 質問紙）を各学期毎に実施し変容を把握している。また、一人一授業のあと、全教員での授業研究会を実施している。

#### (2) 吾妻郡の研究との関わり

- 「教師が学び合う校内研修」とするために以下に示すような視点に沿って実践を行った。
  - ・学び合いが自然にできるテーマ設定となるように研修主任と協議し、「言語活動の充実」をサブテーマとして設定した。
  - ・授業研究会の充実を図る工夫として授業研究会の前に拡大した指導案の「展開」に各教員が青赤黄の付箋に意見を記入し貼り付けておく等、授業研究会の持ち方を工夫した。
  - ・教職員の意識や意欲を高めるために、自己申告書の学習指導の欄に校内研修でのテーマに関わる内容を記入させた。
  - ・研修推進委員会をもちやすいように、推進委員会をスリム化し機能的な体制（校長、教頭、教務、研修主任の4名）にした。

#### (3) その他の実践

- ・公開授業や計画訪問時の授業参観及び日常の授業参観を実施した。
- ・個々の教師の指導内容の確認とデータの蓄積のためチェックシートに記入している。
- ・授業研究会の際には授業者と参加者の発言を適切に評価するようにしている。
- ・校内研修全体会の際に生徒一人一人に目を向けさせるために C&S 質問紙調査の活用を促している。

### 3 まとめと今後の課題

全員が一人一授業に取り組み、授業研究会の持ち方も工夫したことにより、活発な意見交換ができています。また、アンケート調査結果を活用することによって教師が当面の課題を把握したり、修正に向けた協議を行う機会を設けてきた。

しかし、校内研修に対して個々の教師に取り組みの差が見られるので、個々の教師の授業改善意識を高めるために、空き時間を活用し、お互いの授業をいつでも見合うような取り組みの必要性を感じる。各教科の実践をもとに生徒の言語活動例一覧を作成し、一覧をもとに効果のある言語活動を自分の担当する教科にも取り入れて実践してみるなどして、指導方法の改善に十分に結びつくような実践を今後も重ねさせたい。

### 〈3〉 公開授業・授業研究会

#### ① 神流町立万場小学校

##### 1 学校の概要

神流町は、群馬県の南西部に位置し、北は藤岡市、下仁田町に、南は埼玉県小鹿野町、秩父市に、東は藤岡市鬼石、西は上野村に接している。父不見山、御荷鉾山をはじめ、周囲を山々に囲まれ、山林が約9割を占め、自然が豊かであり、中央を西から東へ流れる清流神流川に沿って集落が点在している。町のシンボルは「鯉のぼり」と「恐竜」であるが、近年はトレイル・ランニングの地としても知られるようになってきており、町をあげて盛り上げている。

本校は、校歌「清いつぶらな まなざしに 希望を夢を たたえよう」にあるとおり、希望と夢を持ち、たくましい「神流っ子」の育成を目指している。

44名の児童、17名の職員、さらに家庭・地域の協力をあおぎながら、新たな万場小学校の創造を目指して取り組んでいる。

##### 2 研究大会へ向けての学校の取り組み

本校では、平成23年度の校内研修の主題を「よく考え、分かりやすく伝え合うことのできる児童の育成 ―言語活動に着目した少人数における学び合い活動の工夫を通して―」として、全校を挙げて授業改善に取り組んできた。

その際、へき地小規模校の最大の特色を「少人数」ととらえ、授業のねらい達成のために「少人数」をどう生かすかを授業改善の軸に、「少人数の課題を克服する」「少人数のよさを生かす」の2つの視点から、活用型の学習活動や言語活動の充実を絡めた学習指導を工夫してきた。

習得した知識・技能を活用する活動や表現する言語活動を少人数の中で効果的にし、それぞれの意見や考えを互いに交流させていくことで、自分の考えをより広くしたり、より高めたり、深めたりしていくプロセスが、学力向上につながっていくものと考えた。

具体的に研修を進めていく中で、西部教育事務所による校内研修等充実支援事業の指定を生かし、指導主事による講義や指導を通して、授業作りや指導案作成、授業研究会を数回開き、主題・副題に迫る方向性をさぐってきた。また、多野郡教育研究会での公開授業研究会に積極的に参加し、他校の取り組みから学び、本校での授業改善に生かしてきた。

##### 3 公開授業・授業研究会の様子

(1) 小学校低学年部会（第2学年算数） 授業提案者 2年1組担任 古橋 和明

単元名：「かけ算（2）」

児童数：男子4名、女子4名、合計8名

授業改善の視点：

9の段の九九を構成する学習において、既習事項を基に9の段の九九を構成したり、九九の多様な構成法についてアレイ図やホワイトボードを活用しながら話し合う活動を行ったりすれば、児童の乗法の意味や性質についての理解が深まるであろう。

<本時のねらい>

既習を基に9の段の九九を構成し、構成の仕方を考え、構成方法について説明することができる。

<本時のねらいを達成するための手立て>



- ① 自分の考えを持たせるために、既習事項を基に、9の段の九九を構成する。
- ② 九九の多様な構成方法について、アレイ図やホワイトボードを活用しながら自分の考えを伝え合う。

<本時の学習：実際の学習活動と児童の様子（抜粋）>

学習活動	指導上の留意点	児童の様子
<p>9の段の九九を工夫してつくろう。</p>		
<p>①既習事項を想起する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレイ図を用いて課題を把握しやすくなるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を生かし、「～方式」と発表していた。</li> </ul>
<p>②9の段の九九を構成する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8の段までの学習経験から類推的に考え、9の段の九九を構成できるようにする。</li> <li>・ワークシートに構成法を式で書かせる。</li> <li>・黒面用紙に白チョークで自分の式を書かせ、発表のときに提示できるようにしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの方式を採用するか迷う児童もいたが、教師の支援で活動に取り組めた。</li> <li>・多くの児童が分け方式（分配法則）を採用して九九を構成した。</li> <li>・ワークシートを写すのではなく、自分の考えを整理しながら書いている様子だった。</li> </ul>
<p>どうやって9の段の九九をつくったか発表しよう。</p>		
<p>③9の段の九九の構成方法についてアレイ図を使って説明し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話型を用い、アレイ図を見せながら根拠を明確にして自分の構成法について説明させる。</li> <li>・自分の構成法がどの構成法に分類されるかを意識しながら説明させる。</li> <li>・お互いの説明の違いを意識しながら聞くようにさせる。</li> <li>・一人一人の考え方を全員で共有し、省略した部分を発表者以外の児童に補わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に挙手し、堂々と発表していた。</li> <li>・話型を用いながらも、アレイ図を活用して、自分の言葉で説明していた。</li> <li>・発表者の説明を熱心に聞いていた。</li> <li>・全員が元気に挙手し、発表したがった。</li> </ul>
<p>④本時のまとめをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいにそった感想を発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由を言いながら上手な発表を挙げていた。</li> </ul>

<授業研究会（ワークショップ形式）での意見>

- 本時のねらいを達成するための手立て①で、教師のていねいな支援も得ながら、児童一人一人に「個人レベルでの思考」がよくできており、その後の、考えの説明や交流の土台がしっかりできた。
- 本時のねらいを達成するための手立て②で、全員が自分の考えを発表できた。これは、少人数のよさを生かした活動である。また、児童は、アレイ図を指さして範囲を示しながら説明しており、この活動は数学的な思考力や表現力を伸ばす言語活動として優れていた。
- 自分の考えを説明する活動の際に、聞いている児童が発表している児童の考えを探りながら聞いており、それを後押しする教師の発問も優れていた。児童同士の話し合いは、2年生には難しいと思われるが、教師が間に入ることで、考えの交流が十分になされていた。
- △ 九九の構成法を復習する際に、「どんな作り方がありましたか？」という発問がなされたが、「どうすれば作れそうですか？」という発問の方が望ましかった。
- △ 児童は自分の考えを発表する際に、どうしてその方式を選んだかを発表していたが、漠然とした理由が多く、そこを少し深く追求する質問があるとよかった。

(2) 小学校高学年部会（第6学年外国語活動） 授業提案者 6年1組担任 平岩 美希  
ALT ショーン・トリニダード

単元名：「Lesson 6 おすすめの場所を紹介しよう」

児童数：男子4名、女子2名、合計6名

授業改善の視点：

ALT に神流町のよいところを紹介する活動において、一度発表した後に教師や友だちからの助言を参考にしながら発表を振り返る場を設定することで、児童は自分たちの発表における改善点を話し合っ、一回目より内容の充実した紹介文を発表することができるであろう。

<本時のねらい>

ALT に神流町のよいところを紹介する活動において、教師や友だちからの助言を参考にしながら発表内容を再考し、よりよい紹介文を発表することができる。

<本時のねらいを達成するための手立て>

一度発表した後に、教師や友達からの助言を参考にしながら発表を振り返る場を設定し、自分たちの発表における改善点を話し合う。

<本時の学習：実際の学習活動と児童の様子（抜粋）>

学習活動	指導上の留意点	児童の様子
①はじめのあいさつをして、ALT と交流する。	・あいさつを通して、児童全員の発話機会を確保し、自分の思いを伝える場面を設ける。	・自分の調子や気分を慣れた様子で伝えていた。
②神流町のよいところを発表する。	・紹介するものに関連する写真等を補助的に使用させる。 ・発表はペアで取り組ませ対話形式（質問+回答）にする。	・写真を見せながら、ペアで会話をして、紹介したいものを伝えようとしていた。



・発表後、各ペアに対する賞賛や助言の言葉を ALT や他の児童に述べてもらう。

・助言をすることに戸惑う様子が見られた。  
・教師の補助発問を聞いて、助言を考えようとしていた。

③自分たちの発表内容を改善するために、ペアで話し合い、再度発表する。

・ペアで、教師や友だちの助言を参考に内容を改善する。

・再考した紹介文を発表する練習をする。

・ペアごとに2回目の発表をする。



・ALT からの質問を参考にして、発表をどのように改善するかをペアで相談していた。

・各ペアを見回り、各ペアの実態に応じて支援する。

・発表の態度面、英単語の使い方や表現などを指導する。

・発表を聴いて、改善された点を中心に賞賛する。

・他の児童に具体的にどんなところが改善されていたか感想を求める。

・ペアで協力して発表の練習をしていた。

・どのペアも1回目よりも良い発表内容だった。

・どこが改善されたかを積極的に発表しようとしていた。

④本時の活動を振り返る。

・本時のねらいにそった感想を発表させる。

・互いの発表を認め合っていた。

<授業研究会（ワークショップ形式）での意見>

- 本時のねらいを達成するための手立てが有効で、本時のねらいが達成できていた。
- 「神流町の紹介」という身近な教材で、既習事項や生活体験に基づいて活動でき、お互いの発表に対するアドバイスもしやすかった。
- 児童全員が2回発表したり、児童一人一人にTTでの支援が行き届く等、少人数のよさを生かした授業作りができていた。
- 1回目の発表を再考・改善する際に、どのペアも1文加えることができ、ねらいに迫ることができていた。
- △ 児童同士の助言は活発ではなかった。助言の方向性を明確にしたり焦点化したりする支援を行うことで、意見を出しやすくする工夫があるとよかった。これは、外国語活動だけでなく、どの教科でも意識し、話し合い活動が活発になるようにしてほしい。

## ②上野村立上野小学校

### 1 学校の概要

本校は、上野村東部の国道299号線沿いに位置し、学校の裏には関東一の清流神流川が流れている。上野村1校の小学校で校区が広いと、児童の約8割がスクールバスや路線バスで通学している。また、村が運営する山村留学施設「かじかの里学園」の学園生6名が在学しているという点にも特徴がある。現在、平成21年度に完成した新しい施設で全校児童57名が学んでいる。

### 2 研究大会へ向けての学校の取組

多野郡教育研究会では、平成22年度から少人数指導の在り方や小中9年間を見通した指導の在り方について研究してきた。今年度は、西部教育事務所の校内研修等支援事業の指定を受け、授業研究会等を通して少人数指導の在り方、言語活動の充実方策などについて御指導いただいた。本校では、これまでの研修を踏まえ、児童の実態や学習状況を把握して一人一人への支援方法を明確にした支援表を作成すること、授業の中で児童全員に発表機会や活動場を保障することを課題と捉え、授業公開に向けて準備してきた。

### 3 授業公開・授業研究会

3年国語科「すがたをかえる大豆」 指導者 茂木潤平（児童数10名）

《授業改善の視点》

筆者の説明の工夫を見つける学習において、中心となる語や文章を導く接続語、段落相互の関係、写真の効果等に注目させながら読ませれば、児童は分かりやすい文章を書くための筆者の表現の工夫に気づき、分かりやすく説明するための文章の書き方について理解できるであろう。

〈少人数を生かした指導と言語活動充実に係る手立て〉

児童の学習状況に応じて、次ページの支援①～⑨を支援表に位置づけ、児童一人一人への支援方法を明確にする。また、課題達成状況に応じた複数のワークシートを用意する。

発表場面では教師がコーディネーター役となり、再質問したり、他の児童の意見を引き出したりすることで、児童相互の意見交流を活発にし、思考を深めるようにする。



〈本時のねらい〉

本文の説明の進め方について筆者の工夫を見つけ、分かりやすい文章にするためには、どのような工夫をすればよいか分かる。

〈展 開〉

学習活動	指導上の留意点
1 前時を振り返り、読み取った内容を確認する。	・壁面に掲示した段落構造図を活用し、文章全体の構成に目を向けさせる。 ・『くふう』の部分は赤い直線、『できた食品』の部分は青い囲みで示してあることを確認し、文章構成を考える手がかりにさせる。
2 学習の課題を確認する。	・筆者の表現の工夫は何かという視点を与え、読みのめあてを明確にさせる。
分かりやすい説明を書くために、筆者どんな工夫をしているか考えよう。	
3 筆者の説明の仕方の工夫を考える。	・ワークシートに自分の意見を書かせる時間を十分に確保する。 ・分かりやすい説明の仕方に児童自身が気づき、発表できるように、支援①～⑨を行う。

【・＝「努力を要する」への支援 ○＝「おおむね満足」への支援 ◎＝「十分満足」への支援】

- ・支援① 段落というまとまりに気づかせるために、教科書（上）や今までに学習した説明文を例示し、説明文は「はじめ」、「中」、「終わり」に分かれていること、その中に、段落というまとまりがあることを想起させる。
- 支援② 説明する事がらは、段落ごとにまとまっていると分かりやすいことに気づかせるため、段落に分けられていると良い点を考えさせる。
- ・支援③ 各段落の中心となる文に色をつけ、視覚的に文章の構造をとらえさせる。
- 支援④ 中心となる文を、より端的に抜き出させるために、中心となる語に気づかせ、「○○のくふう」という形で各段落をまとめさせる。
- ・支援⑤ 教科書の本文にある食品の加工過程に線を引かせ、工程の記述が少ない＝単純な加工で、記述が多い＝複雑な加工であることに気づかせる。
- 支援⑥ 単純な加工→複雑な加工の順に説明すると、説明が分かりやすくなることに気づかせるために、3～6段落の順序を入れ替えて提示して読ませる。
- ・支援⑦ 写真がない本文を提示して読ませたり、「ありの行列」に挿絵が載っていることを確認させたりすることで、写真があると記述内容がイメージしやすくなり、説明が分かりやすくなることに気づかせる。
- 支援⑧ 写真が使われていることの良さに気づかせるため、教科書の本文と写真が連動していることを確認し、写真を別の場所に移すと、どんな感じを受けるかを考えさせる。
- ◎支援⑨ 「ありの行列」の段落構造図と「すがたをかえる大豆」の段落構造図を比較しながら、説明文の構造が同じ所（「はじめ」、「中」、「終わり」）と違う所（「中」に具体例がある等）に気づかせ、次単元で説明文を書く際に、自分はどちらの構造を使ったら良いかを考えさせる。

#### 分かりやすい説明の仕方のポイント

- ・「はじめ」で、説明する話題を示している。
- ・「中」で具体例を挙げて説明している。
- ・「終わり」は、まとめになっている。
- ・説明する事がらごとに、段落を分けている。
- ・中心となる文を段落の最初に書いている。
- ・例を挙げる順番（単純→複雑）を工夫している。
- ・文をつなぐ言葉が工夫してある。（いちばんわかりやすいのは、次に、また）
- ・文の終わりに「～です」や「～ます」を使っている。
- ・写真を使って分かりやすくしている。

4 本時のまとめをする。

・分かりやすい文章を書くための筆者の説明の工夫がたくさん見つかったことを賞賛し、今後の学習につながる成果が出たことを実感させる。

分かりやすい説明文を書くためには、説明の仕方のポイントにあることを使って書けばよい。

#### 〈授業研究会の様子〉

4班に分かれてワークショップ形式で行い、どの班も活発な話し合いが行われた。

各班からは、教室に掲示されていた段落構造図が効果的だった、児童の実態がよく把握されていて適切な支援が行われていた、児童相互の意見交流が活発に行われるような手立てを講じる必要があるなどの意見が出された。

指導助言者からは、「細かな支援表が作れるのは少人数のよさであり、児童一人一人の活動の場を保障したり、

思いや願いを持たせるために効果的である。」「発表場面では、教師がコーディネーター役として子ども同士の意見交流をさらに深められるとよい。」等の御指導をいただいた。



### ③神流町立中里中学校

#### 1 学校の概要

本校は、平成 15 年の町村合併に伴い、平成 16 年に万場中学校と中里中学校が統合し、「神流町立中里中学校」としてスタートした。

生徒数 28 名、学級数 3 の小規模校である。校区は東西約 20km に及び、25 名がスクールバスを利用し通学している。生徒は明るく素直で、何事にもまじめに取り組む。

本校では、地域の特性や小規模校のよさを生かし、「小さな学校でも大きな学校に負けるな！」を合言葉に、一人一人の生徒が達成感・充実感を味わえる指導に努めている。

#### 2 研究大会に向けての取組

本校では、「確かな学力を身に付けた生徒の育成」を研修主題、「言語活動の工夫を通して」を副主題として、一人一研究授業を行っている。言語活動を取り入れた指導・少人数のよさを生かした指導の方法を研究、実践することで、確かな学力を身に付けた生徒の育成を目指すことを校内研修のねらいとしている。今回の授業も指導案検討会を重ね、言語活動や少人数指導の工夫に視点を当てた授業づくりを進めてきた。


#### 3 公開授業の概要

##### ・ 理科（1年）

(1) ねらい 身近な物質を用いて発生させた気体を調べる実験を行い、異なる方法で発生させた気体であっても、その特性から種類を推定し、同一の気体であることを見いだす。

(2) 準備 ニンジン、オキシドール、ベーキングパウダー、食酢、炭酸水、漂白剤、湯、線香、マッチ、燃えさし入れ、石灰水、三角フラスコ、ビーカー、試験管、試験管立て、水槽、ゴム栓、ガラス管ゴム管付きゴム栓、プリント

(3) 展開

学習活動	時間	支援及び留意点 ◎：少人数指導の工夫 ○：言語活動の工夫	<評価の観点> 評価項目
1 本時の課題と実験方法を発表する。	5	・前時に立てた実験計画を発表することで、本時の課題や実験方法を再確認でき、視点を明確にした実験が進められるようにする。	
異なる方法で発生させた気体を比べると、どのようなことがわかるか。			
2 実験計画に基づき実験を行い、プリントに結果を書く。 《気体発生法》	20	◎一人一実験にすることで、個々の実験計画に基づいて目的意識をもって実験を進められるようにするとともに、実験器具の操作技能を身に付けられるようにする。  ◎個々の生徒の様子を見守り、必要に応じて生徒一人一人の技能に応じた注意を促したり、補助をしたりすることで、全員が正しく安全に実験が行えるようにする。  支援① 水上置換法で気体を集めるとき、水槽の中に試験管立てを設置することで、気体を捕集しやすくし、実験がスムーズに進むようにする。	
A：刻んだニンジンにオキシドールを加える。 B：ベーキングパウダーに食酢を加える。 C：炭酸水をよく振る。 D：湯に漂白剤を入れる。			

<p>3 各自の実験から得られた結果を基に、考察を行う。</p> <p>①個人でホワイトボードに考察を記入する。</p>	10	<p>○「この実験で発生した気体は～。理由は…だから。」という話型を用い、物質を推定した根拠を一人一人が明確に表せるようにすることで、これまでに習得した知識・技能を生かした考察が行えるようにする。</p> <p>【期待する生徒の反応】</p>	
<p>【活用する主な知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火のついた線香が激しく燃えれば、その気体は酸素である。</li> <li>・石灰水を白くにごらせれば、その気体は二酸化炭素である。</li> </ul>		<p>・ Aの方法で発生させた気体は酸素である。 理由は、線香を入れると激しく燃えたから。</p> <p>・ Bの方法で発生させた気体は二酸化炭素である。 理由は、石灰水が白くにごったから。</p>	
<p>②全員でそれぞれの実験結果から分かったことを発表し合い、考察を比較して気付いたことを話し合う。</p>	10	<p>◎個別の支援計画を作成し、考察などの場面ごとに実態に沿った支援を行うことで、より生徒一人一人に応じた支援が行えるようにする。</p> <p>支援② 考察や根拠の書けない生徒には、今までに学習した気体の性質を一覧表にしたものを提示することで、実験結果と気体の性質を比較しやすいようにする。</p> <p>○司会役の生徒を設定することで、スムーズに進行できるようにするとともに、全生徒が発言しやすい仕組みをつくるようにする。</p> <p>支援③ 話し合いのとき、「共通点は～」という話型を提示することで、4種類の気体発生法には同じ気体を発生する方法が複数あることに気付かすいようにする。</p> <p>支援④ <b>《おおむね満足の生徒への支援》</b> 気体ごとに性質や発生法をまとめた表に本時の気体発生法を書き加えさせることで、気体に複数の発生法があることに気付かすいようにする。</p>	<p>〈科学的な思考〉</p> <p>【おおむね満足】 異なる方法で発生させた気体であっても、その特性から種類を推定し、同一の気体であることを見いだしている。</p> <p>【十分満足】 異なる方法でも同一の気体が発生することから、気体には様々な発生法があることを見いだしている。 (行動観察、プリント)</p>
<p>4 話し合いでわかったことと自己評価をプリントに記入する。</p>	5	<p>○本時の活動を振り返り、プリントに整理して書かせることで、本時の学習内容を確認できるようにするとともに、今後の学習や生活との関連への意識を高めることができるようにする。</p>	

(4) 授業研究会の協議内容

加瀬教諭から、「少人数のよさを生かした一人一実験やきめ細かな支援を工夫した」との授業説明があった。その後の協議では、「生徒が既習事項を活用した思考ができていた、実験の目的意識をもち、主体的に活動できていた、生徒の反応を待つ場面と教師が教える場面をはっきりさせるとよい」などの意見をいただいた。指導助言者の井上指導主事からは、「個々の実験により、実感を伴った理解ができていた。」「全員の前で発表する場面を設定するなど、生徒の実態をよく把握した適度な支援や言葉がけができると良い」等のご指導をいただいた。

## ④上野村立上野中学校

### 1 学校の概要

本校は、群馬県の西南端に位置する上野村唯一の中学校で、全校生徒37名のへき地小規模校である。生徒たちは、素直で明るく前向きに学校生活を送っている。一方で人間関係や価値観が固定化されている傾向が見られ、「授業の中で発言する生徒やその内容が決まっている」「周囲の目を気にして新しい自分の意見を表現できない」「自分で考え、主体的に行動することができない」といった課題もみられる。本年度は、生徒が自分に自信を持ち、更なる意欲を獲得して、主体的に行動できるようになって欲しいというねらいのもと、村の体育祭でソーラン節に挑戦したり、文化祭の初開催など、新たな学校行事に取り組んでいる。

### 2 研究大会に向けての取り組み

本校では、「主体的に学ぶことのできる生徒の育成」を研修主題、「～学び合い活動～の工夫を通して」を副主題として、一人一研究授業に意欲的に取り組んでいる。ただし、教師集団の規模が小さく、同学年の教員がいなかったり、同じ専門教科の教員がいなかったりという現状にある。そこで、隣接町村の教職員が連携、協力して研修する機会を多くもち、教師力・指導力の向上を図ってきた。特に今年度は「少人数」「言語活動」をキーワードに研修を推進するとともに、へき地大会に向けて公開授業研究会を実施してきた。

### 3 公開授業の概要 音楽（2学年）

- (1) ねらい 言葉の抑揚と旋律線のもつ方向性を関連づけて、合唱表現を工夫することができる。
- (2) 準備 楽譜、ピアノ、パート別CD、伴奏用CD、拡大譜
- (3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	評価項目
1. 母音を用いた発声練習及び、既習曲を歌う。	7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声を意識して既習曲を歌う際には、音程や姿勢、口の開き方などに意識をしながら歌えるように、丁寧に発声練習を行う。</li> <li>・合唱曲を仕上げる際に大切なこと（相手に思いが伝わるように歌詞を大切に歌うこと）を確認し、本時の学習課題を提示する。</li> </ul>	
2. 本時のねらいを確認する。		言葉の抑揚と旋律線を関連づけて、合唱表現を工夫しよう。	
3. <b>A</b> 、 <b>B</b> の言葉の抑揚と旋律線を考え表現の工夫をする。 ・楽譜を見て、マークをする。  ・ <b>A</b> 、 <b>B</b> で考えた工夫を意識して合唱する。	7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の抑揚と旋律線をどのように関連づければよいか <b>A</b>、<b>B</b>を全体で考えてから、後半の <b>C</b>以降を生徒主体で工夫していくようにする。</li> <li>・歌う際に楽譜を見て意識して歌えるように、楽譜にマークしていくよう伝えるときに、拡大譜に書き込みをしていく。（言葉とフレーズに着目させる。）</li> <li>・表現の工夫カードを提示し、マークした箇所の歌い方について使える表現の言葉があれば用いるよう促す。（明るく・やさしく・はっきりとなど）</li> <li>・<b>A</b>、<b>B</b>で考えた工夫の箇所を合唱において表すことができるように、言葉の抑揚と旋律を意識して歌うよう促す。</li> </ul>	
4. <b>C</b> 以降の工夫を考える。 ・個々に考えをワークシートに記述する。  本時のねらいに関する生徒の活動（1）	8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に考える時間を十分に取り、机間指導を行い、一人ひとりの活動において見取っていく。</li> <li>・考えやすいように、歌詞を口に出して読んだり、旋律を口ずさんだりしながら活動するよう促す。</li> </ul>	
		支援①：自分のパートを考えていく際には、少しずつ考えられるように、小節を区切って考えるよう促す。（2小節ごとに考えさせる。）	
		支援②：支援①でも活動が進まない生徒には、少しでも活動が進められるように、歌詞の朗読や旋律を口ずさむなどを促したり、一緒に活動したりする。	



		<p><b>支援③</b>：〈上位の生徒を十分満足に導くための手立て〉自分のパートを考えていく際には、楽譜にマークした箇所をどのように歌うとよいかを考えて書き込みをするように促し、表現の工夫につなげられるようにする。(表現の工夫カードを用いる)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとに話し合い、表現の工夫が表れるように練習する。</li> <li>・各パート練習場所に分かれて活動する。</li> </ul>	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に持った意見をパートの友達に伝えたり、友達の意見を取り入れたりすることで、表現の工夫がより深められるようにする。(各パートを巡視し、マークされた箇所を拡大譜に書き込む。)</li> <li>・楽譜に表したことを歌唱に表せるようにパート練習をする時間を取る。(伴奏用CDを用意しておく)</li> <li>・巡視しながらパートごとに声をかけ、どこを工夫したのか聞いたり、気付けなかった箇所を指摘したりすることで新たに工夫できるようにする。(パート練習の巡視及びピアノの周りに集めて指導)</li> </ul>	
<p>5. ピアノの周りでパートごとに成果を発表し合う。</p> <p>本時のねらいに関する生徒の活動(2)</p>	8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとに楽譜にマークした箇所ならびに、話し合った表現の工夫を発表させる。</li> <li>・歌い合った成果は、自信をもって披露させると共に、しっかりと聴くよう促し、全体で共有できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【期待される生徒の発言】</b></p> <p>ソプラノ「“ほしのように”のところは、“ほし”をしっかりと発音し、フレーズのまとまりを感じながら歌う。」</p> <p>アルト「“ひとりのこらず”のところは、音が低くなっているので、“のこらず”をしっかりと発音し、暗くならないように歌う。」</p> <p>テノール「“ほしのように”の“ように”の音が高くなっていて強調しすぎてしまうので、“ほし”を意識して歌う。“ように”をやさしく歌う。」</p> </div> <p><b>支援④</b>：パートごとに歌を発表する際には、楽譜にマークした箇所の中で、一つだけ選んで、その箇所だけは特に強調して歌うよう促す。</p> <p><b>支援⑤</b>：〈上位の生徒を十分満足に導くための手立て〉パートごとに発表する際には、楽譜にマークした箇所を強調して歌うよう促すとともに、記述した表現の工夫が表れるようにして歌唱させる。</p>	<p>〈おおむね満足〉言葉の抑揚と旋律線の方向性を知覚して、音楽表現を工夫している。</p> <p>(十分満足)言葉の抑揚と旋律線の方向性を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫している。</p> <p>(観察・楽譜・表現) 2ー②</p>
<p>6. 言葉の抑揚を意識しながら全体で合唱するとともに、本時の学習を振り返る。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で合わせる際は、伴奏を弾いたり、拍子を取ったりする。無伴奏で歌う際には、音程が取れるように、必要に応じてフレーズの最後の和音や伸ばす音などを弾く。</li> <li>・次時は、これまでの学習活動を生かして発表を行うことを告げ、意欲を高められるようする。</li> <li>・本時の学習の取り組み(言葉の抑揚と旋律線のもつ方向性との関連を考え、合唱表現に生かすこと)を称賛し、本時のまとめとする。</li> </ul>	

#### (4) 授業研究会の協議内容

齋藤教諭から、「相手に思いが伝わる合唱にするために、歌詞を大切にしたい歌い方の工夫として、言葉の抑揚と旋律線を関連づけた合唱を表現する授業である」との説明があった。

その後の研究協議では、「言語活動が活発であった」、「表現の工夫カードが有効活用されていた」、「個々で考える時間、全体で合唱する時間をもっとあるとよかった」などの感想をいただいた。指導助言者である西部教育事務所の丸山指導主事からは「言語活動において、音楽的な用語を使いながら発言することができた」、「言語活動と歌唱活動を繰り返し行うことでより工夫の練り上げができた」、「パート練習の際に工夫ができていたパートを紹介すると別のパートへの意欲付けになる」等のご指導をいただいた。

## Ⅲ へき地教育ブロック別実践研究集会

### 〈1〉 Aブロック

- 1 趣 旨 Aブロックのへき地学校に勤務する教職員が集まり、地域の特性を生かしたへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、指導力の向上に役立てる。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟 Aブロックへき地研究連盟
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 高崎市教育委員会
- 4 期 日 平成23年8月5日(金)
- 5 会 場 かみつけの里博物館 研修室 常設展示場  
上毛野はにわの里
- 6 参加者 Aブロックのへき地学校教職員他 100名
- 7 日 程
  - (1) 受 付 9:30～9:45
  - (2) 開会行事 9:45～10:00 (司 会) Aブロック書記 伊勢川 聡
    - 開会のことば Aブロック副会長 有阪 俊人
    - あいさつ Aブロック会長 原田 和之
    - 来賓あいさつ 高崎市教育委員会教育長 飯野 眞幸 様
    - 閉会のことば Aブロック副会長 有阪 俊人
  - (3) 講 演 会 10:00～11:00
    - 講師紹介 高崎市立宮沢小学校長 住谷 孝明
    - 演 題 「群馬の古墳 ～馬と共に生きる～」
    - 講 師 かみつけの里博物館 学芸員 矢島 浩 様
    - 謝 辞 上野村立上野中学校長 飯出 哲夫
  - (4) 諸連絡・休憩 11:00～11:10
  - (5) 現地研修会 11:10～11:40
    - かみつけの里博物館常設展示場
      - ・古墳からの出土の副葬品 ・古墳や水田やムラの模型 ・埴輪 等
    - 上毛野はにわの里公園
      - ・二子山古墳 ・八幡塚古墳 ・薬師塚古墳

### 8 講話の概要

講師の矢島様より以下の内容のお話をいただいた。

- ①県内、特に身近な古墳を中心に、古墳の成り立ちから衰退までについて。
- ②古墳からの出土品を手がかりに、人と馬との深いかかわりについて。

### 9 まとめ

Aブロックでは、昨年度末に5校が閉校(統合し1校が開校)となり、加盟校が17校から13校に減った。参加人数も昨年度と比べると減少したが、共にへき地教育に携わる教職員が一堂に会し、共通のテーマで研修を深めることは大変意義深い場である。講演会も博物館で今秋予定されている企画展を先取りした内容で、大変興味深いものであった。また、今回会場となった「かみつけの里博物館」には、古墳や出土品等の常設展示場もあり様々な体験活動も用意され、日々の授業に生かそうと現地研修会が終了しても係員に質問する先生方の姿も目立った。

(文責 高崎市立倉渕中学校長 原田 和之)

## 〈2〉 Bブロック

- 1 **趣 旨** 地域の実態に即したへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質の向上を図る。
- 2 **主 催** 群馬県へき地教育研究連盟 吾妻郡へき地教育研究会  
吾妻郡東部・西部へき地教育センター
- 3 **後 援** 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会
- 4 **期 日** 平成 23 年 8 月 10 日 (水)
- 5 **会 場** 吾妻郡生涯学習センター「ツインプラザ」 交流ホール
- 6 **参加者** 吾妻郡へき地学校教職員他 150 名
- 7 **日 程**
  - (1) 受 付 13:30 ~ 13:50
  - (2) 開会行事 14:00 ~ 14:10
    - 開会の言葉
    - へき地教師の歌斉唱
    - あいさつ 吾妻郡へき地教育研究会 会長 水出 正一
    - 来賓祝辞 吾妻教育事務所 所長 小池 明夫 様
    - 閉会の言葉
  - (3) 参加報告 14:10 ~ 14:30
    - 平成 22 年度全国へき地教育研究大会広島大会の報告
    - 発表者 中之条町立沢田小学校 小林 秀之 教諭
    - ~ 休 憩 ~
  - (4) 講 演 14:40 ~ 16:10
    - 演 題 「火山観測 100 年：2004 年浅間山噴火、2011 年新燃岳噴火は我々に何を教えてくれたか」
    - 講 師 東京大学地震研究所 火山噴火予知研究センター長 武尾 実 様
  - (5) 閉 会 16:20

## 8 まとめ

今年は浅間山の火山観測が開始されて百年にあたり、タイムリーな講演会となった。浅間山の過去の噴火活動やマグマの供給系と地震・地殻変動等について、各種の詳細なデータを用いながら専門的に説明していただいた。浅間山のマグマだまりは火口より数 km 西にずれた位置にあることなど、最新の機器による観測から解明された事実なども知ることが出来た。

また、平成 23 年 1 月から始まった新燃岳の噴火に関しては、浅間山の噴火との共通点・相違点についてデータを対比しながら説明していただいた。現在では各種センサーが搭載可能な対高度、対火山灰・ガス等の耐性にすぐれた無人ヘリコプターが開発されており、サンプル採取が可能になっている。こうした技術の進歩にともない、噴火直後の情報収集が安全に出来るようになり、火口近傍のリアルタイム観測システムが確立しつつある事が話された。現在の噴火予知活動が長年の観測の積み重ねと技術革新の上に成り立っていることが実感できた講演会であった。

(文責 長野原町立北軽井沢小学校長 高橋 通泰)



### 〈3〉Cブロック

- 1 趣 旨** 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員が、へき地の特性を生かす教育について研究するとともに、県天然記念物指定ヒメギフチョウ保護活動に関する講演や赤城歴史資料館見学研修をとおして、教職員の資質の向上を図る。
- 2 主 催** 群馬県へき地教育研究連盟 利根・沼田・渋川へき地教育研究会
- 3 後 援** 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会
- 4 期 日** 平成23年8月9日(火)
- 5 会 場** 渋川市立南雲小学校・渋川市赤城歴史資料館
- 6 参加者** 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員 28名
- 7 日 程**
- (1) 受付 8:20～8:40
- (2) 開会行事 8:40～(南雲小学校図書室)
- ① 開会
- ② へき地教師の歌「太陽となろう」
- ③ あいさつ
- ・群馬県へき地教育研究連盟副理事長 吉野 隆哉
- ・渋川市教育委員会教育長 小林巳喜夫 様
- ④ 日程説明
- ⑤ 閉会
- (3) 講演 9:00～10:00
- ・講師紹介 南雲小学校長 西山 和子
- ・講演 演題 「山の里から世界へ ～ヒメギフチョウ保護活動をとおして～」
- 講師 赤城姫を愛する集まり副会長 松村 行栄 様
- (4) 休憩・移動 10:00～10:40
- (5) 見学研修 10:40～11:30 渋川市赤城歴史資料館
- 「学習につながる資料の活用」
- 講師 渋川市生涯学習部文化財保護課 島田 志野 様
- (6) 閉会行事 11:30～11:40
- (7) 解散

### 8 まとめ

赤城姫(ヒメギフチョウ)を愛する集まり副会長松村氏から、生物多様性、ヒメギフチョウ激減の原因、実践的保全(地域研究者・地域行政・地域住民と南雲小の取り組み)等について、写真を交えて講演していただいた。地域の自然を守ることは、地域の文化を守ることに通じると話された。それぞれの地域の自然を守っていく大切さを実感した。

現地研修では、赤城歴史資料館の展示品を見学しながら、文化財保護課島田氏に説明をいただいた。石器や土器類、埴輪、民族資料古文書等をとおして、あかぎの古代文化にふれることができた。

(文責: 渋川市立南雲小学校長 西山 和子)



## Ⅳ 第60回全国へき地教育研究大会（北海道大会）

### 〈1〉概要報告

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

第60回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、北海道教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、平成23年10月13日(木)～14日(金)の2日間にわたって北海道旭川市で開催された。

1日目は、旭川市の旭川市民文化会館を会場に、全国のへき地・小規模校・道内各学校の参加者総数1100名のもと盛大に開催された。本県からは、校長・教諭・県教委指導主事の8名が参加した。午前の全体会に続き、午後は全国第7次研究推進計画研究課題別に6つの分散会が開かれた。2日目は、10の小中学校で公開授業が行われ、その後9つの分科会場で各地区の研究発表や熱心な協議が行われた。

#### 第1日（10月13日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者として、文部科学省初等中等教育局教育課程課長、北海道大会長・北海道教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があり、北海道知事から来賓代表の祝辞をいただいた。

基調報告では、まず全国へき地教育研究連盟研究部長から、第7次長期5か年研究推進計画(平成21～25年)の概要説明があり、続いて北海道大会研究部長から、北海道大会主題「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」、大会スローガン「北の大地北海道で育つ子らに 培おう未来を拓く力を」をもとにした北海道の取り組みに関する報告がなされた。

講演は、「伝えるのは いのちの輝き」～今は未来のために～と題して、旭川市旭山動物園園長板東 元 先生の話があった。来園者が少なく廃止を囁かれた旭山動物園を、獣医として、職員として、現在の旭山動物園に再生させた過程の一端を熱く語っていただいた。特に、再生への原点とも言えるオオカミの治療から学んだ「自分が思いもしなかった生命観（痛みも苦しみも受け入れる生き方）」、珍しい動物、変わった動物をすごいと思う大人（一般）の価値観を、みんなそれぞれにすごい動物なんだと分からせるために展示を含めての苦労話。動物園で、「命をつたえる（誕生の数だけ死がある）」を入園者に伝える努力。動物の世界では、競争・個性はあり、みんな同じはあり得ない。優劣をすぐに考えるのは常に「ある価値基準」で見ているだけ。1位には1位の価値があり、6位には6位の価値がある。など学校教育でも参考になる示唆に富んだ話であった。

講演終了後、次回開催地である、和歌山県へき地教育研究連盟委員長より挨拶があり、和歌山県へき地教育研究連盟研究部長が、分科会会場の紹介を行った。最後に北海道へき地・複式教育研究連盟事務局長より和歌山県へき地教育研究連盟事務局長へ大会旗が引き継がれ、全体会を終了した。

アトラクションは、旭川チカップ・アイヌ民族文化保存会の出演により、「アイヌ古式舞踊」が披露された。

午後は、全国第7次研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、北海道ブロック1校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

#### 第2日（10月14日）「授業公開・分科会」

2日目の前半は、北海道下の10小中学校(A名寄市立智恵文(ちえぶん)小学校、B士別市立多寄小学校、C士別市立多寄中学校、D旭川市立第五小学校・桜岡中学校、E東川町立東川第一小学校、F美瑛町立美進(びしん)小学校、G中富良野町立西中(にしなか)小学校、H富良野市立鳥沼小学校、I富良野市立山部中学校)で、それぞれ3～6授業、計46の授業が公開され、その後A～Gの9分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

## 〈2〉分科会報告

### B分科会

# 伝え合う力を高める教育活動の工夫

～国語科を中心とした豊かな言語活動を通して～

下仁田町立西牧小学校教諭

飯野 邦子

1 会場校 北海道士別市立多寄小学校（児童数20名 複式3・特支1、職員9名）

### 2 地域・学校の概要

旭川市から、およそ50km北に位置する士別市は、道央自動車道の最終地点にもなっている。校区は、士別市北部、名寄盆地中央に位置する天塩川沿いに開けた地域で、畑作や稲作を中心とした純農村地域であり、全戸数452、人口1120人である。（平成23年1月末現在）

現校舎は、平成21年4月に多寄中学校校舎へ併設という形で改築工事が開始され、翌年の平成22年2月に完成した。体育館・理科室・音楽室・図工室・家庭科室は、多寄中学校と共有使用している。

平成22年10月15日に、「全道へき地複式研究大会上川プレ大会」が実施された。そして、今回の「全国へき地研究大会」の公開授業の会場校として、研究を積み重ねてきた。

### 3 研究の概要

#### （1）研究仮説

- ①言語活動の基礎である言語力の充実を図ることで、子どもたちは自分の思いや考えを適切に表現することができるであろう。
- ②子どもに身に付けさせたい力を明確にしたり、教材・課題設定を工夫したりすることで、子どもたちは主体的に表現することができるであろう。
- ③評価の工夫を行うことで、自他を認めることができ、更には、次の課題を見つけ、意欲的に取り組むことができるであろう。

#### （2）研究内容

- ①言語活動の充実・基礎基本の定着
- ②子ども一人一人に身に付けさせたい力を明確にした単元指導の実施・子どもの興味関心を高める課題設定の工夫・子どもが見通しを持って学習できる指導の工夫
- ③よさを見取り、次の活動（課題）につなげる評価の工夫

（3）公開授業 ①公開授業Ⅰ 1・2年国語 3・4年国語 5・6年国語

②公開授業Ⅱ 1～6年生活・総合 学習交流会

### 4 所感

私は、1校時目に1・2年の国語の授業を参観しました。1年生は「りすのわすれもの」、2年生は「わにのおじいさんのたからもの」の読み取りの授業でした。3名ずつの計6名の子ども達は、担任の指導の下、しっかり学習していました。わたりの授業を見て、担任は2学年分の教材研究や授業準備をしなければならず、その大変さを改めて知りました。教師に熱意と誠実さがなければ、毎日の授業が成り立たないと思いました。また、2校時目の授業は、全校児童の生活と総合的な学習の時間の交流学习でした。1年生は「あきとともだち」、2年生は「ハートをつなごう」、3年生～6年生は「共に生きる～福祉のまち士別～」で、それぞれ体験したことを全校児童に伝え、お互いに意見交換を行っていました。小さい学校だからできるメリットを取り入れて、お互いに学び合う児童の姿は、とても生き生きしていました。

## C分科会

# 自ら学び、自ら考える生徒の育成

～一人ひとりの考えを生かす授業を通して～

東吾妻町立坂上中学校教諭 山田 浩昭

1 会場校 士別市立多寄中学校（生徒数 23 名 3 学級 職員数 12 名）

## 2 地域・学校の概要

士別市は北海道北部の中央に位置する、水と緑豊かな田園都市である。農業を基幹産業としたまちで、国際会議にも供されるサフォーク羊も飼育されている。多寄町は市の北端に位置し、一面に田畑が広がる農村地帯となっており、大豆、水稻、小麦、蕎麦などがつくられている。

多寄中学校は昭和 22 年に開校され、最盛期には 370 余名の生徒を有したが、現在は男子 16 名、女子 7 名の計 23 名である。平成 11 年に近代的な新校舎と体育館が完成。平成 22 年には体育館を挟む形で多寄小学校が併設され、体育館や特別教室を共用する小中併設校となった。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の仮説

- ① 課題把握において動機づける場を工夫することで、主体的に学習する力が身につくだろう。
- ② 課題解決において予想したり考えられる場や発表・交流する場を工夫することで、主体的に学習する力が身につくだろう。

### (2) 研究の主な内容

【動機づける場の工夫】 ① 課題を解決しようと思える手立ての工夫

「ア 生活体験とつながった発問」「イ 教材・教具の工夫」「ウ 体験的な活動」

「エ 既習事項を生かした発問」

【予想したり考えられる場の工夫】 ① 一人ひとりが考えられる場の工夫

「ア 考える時間の制限と確保」「イ 能力や段階に応じたアドバイス」

【発表・交流する場の工夫】 ① 一人ひとりが活躍できる集団解決の工夫

「ア 様々な形態の設定」「イ 発表の視点の明確化」

「ウ 自分の考えを表示・表現する方法の工夫」「エ 偏りのない指名」

### (3) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 1年 体育「バレーボール」 2年 音楽「箏」 3年 数学「相似な図形」
- ② 公開授業Ⅱ 1年 英語「Lesson 6 楽しいキャンプ」 2年 国語「走れメロス」  
3年 社会「暮らしを支える経済」

## 4 所感

温もりと開放感のある美しい校舎、熱意にあふれ一丸となって指導に当たる教職員、学校を一体となって支えていた保護者や地域の方々、そして、どの公開授業でも見られた、和気あいあいとした雰囲気の中で互いの考えを交流させながら意欲的に学ぶ子供たちの姿、そこに教育の原点を見た思いがした。校内研修の内容で特筆されるのは、目標や手立てが整理されていてとても分かりやすいということである。「主体的に学習する」生徒の姿を明確に規定し、問題解決的な学習を手立てとして全教科で同一歩調の実践を行っていた。このことが、研究推進の上で大きな力になっていると感じ、大変参考になった。研究協議の中で、問題解決的な学習を行う上で生じる課題を解決するための手立てと、少人数の中でコミュニケーション能力を高めるための工夫について質問させていただいたが、そのあたりもしっかり意識した取組がなされていることや、発表の重圧を感じさせない自然体の学校の雰囲気から、日々の教育活動の充実ぶりが感じ取れた。

## D分科会

### 確かな学力を身につけ、豊かな心で主体的に行動できる児童生徒の育成

～小中連携教育の推進を通して～

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

#### 1 会場校 北海道旭川市立第五小学校・桜岡中学校（併置校）

#### 2 地域・学校の概要

旭川市東旭川町桜岡地区のほぼ中央に位置する。旭川電気軌道バス停「旭山公園前」から3.5km、JR桜岡駅から2.5kmのところにある。旭川市北東部の丘陵及び河川沿いに広がる水稲栽培を主とする農村地帯で、当麻町に隣接し、市内中心部より車で約30分の位置である。丘陵傾斜地を利用した水稲栽培のため水源確保用に多くの溜池が散在しており、豊かな自然環境に恵まれた地域である。本校は明治38年に東旭川第七簡易教育所として開校し、旭川第四尋常小学校分教場を経て、大正7年に旭川第五尋常小学校として分離独立した。併置の桜岡中学校は、戦後の学制改革により昭和22年旭川中学校東桜岡分校として開校、昭和29年に分離独立した。現校舎は、昭和63年に新築された。木の持つ良さと桜岡の自然にマッチすることを考慮し、ロッジ風の校舎であり、地域住民のスポーツ・文化の拠点としての機能も担っている。

#### 3 研究の概要

##### (1) 研究課題・内容

- ①各学年における基礎的・基本的な学習内容を明確にし、繰り返しの指導や継続した家庭学習の取り組みを推進し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる。
- ②授業において、問題解決的な学習を取り入れるなど授業方法を工夫展開し、児童生徒が意欲的・主体的に学習に取り組み、確かな学力を身に付けさせる。
- ③小中が連携し、地域の教育力を生かした桜岡ならではの教育活動を行い、ふるさとを愛する豊かな心を持った児童生徒の育成。

##### (2) 研究の実際

- ①9年間を見通した指導計画の作成
- ②スキルアップタイムの実施
- ③家庭学習の推進
- ④読書活動の推進
- ⑤学習過程の工夫
- ⑥授業形態、学習形態の工夫
- ⑦授業内容の工夫
- ⑧小中連携行事の充実
- ⑨地域の教育力を生かした教育活動の充実

##### (3) 公開授業

- 1校時－小学5・6年国語（複式授業）小5:「大造いさんとガン」、小6:「やまなし」
- 1校時－中学1年数学 「方程式（比と比例式）」
- 2校時－小学校2年・中学3年国語（小中合同授業）小2:「ともこさんはどこかな」、中3:「相手を意識して伝えよう」
- 2校時－小学5・6年外国語活動・中学2年英語（小中合同授業）

#### 4 所感

旭川市立第五小学校は、1年、2年が単式、3・4年、5・6年が複式の4学級児童数31名である。併置校の桜岡中学校は、特別支援学級を含む4学級生徒数16名である。併置校の利点を生かし、9年間を見通した指導計画の作成や小中連携行事の実施、小中合同授業の実施などに取り組んでいる。当日参観した小2・中3の小中合同授業は、驚くと共に画期的な取り組みと感じた。無論、各学年の「ねらいの達成」などに吟味が必要であるが、併置校の良さを全面に出した実践である。また、中1の数学の授業で、生徒数は3名と少ないが全員が説明する力が高かった。日常的に、筋道を立てた説明の指導の成果だと思う。そして小中併置校の中で、特に中学生と深い人間関係で成長していくということは、学校生活のみならず、卒業後の地域づくりにもつながっていくものだった。参考になることの多い分科会だった。



## E分科会

# 進んで学び、考えを深める子どもの育成

～小規模校における個に応じた算数科指導を通して～

婦恋村立田代小学校長 水出 正一

### 1 会場校 北海道東川町立東川第一小学校

(児童数 30 名 複式 3 学級 特別支援 1 学級 職員数 11 名)

### 2 地域・学校の概要

東川町は「お米と観光・工芸の町」「おいしい水、うまい空気、豊かな大地」「写真の町」として、明治 28 年に開拓が始まり、本年度で開拓 117 年を迎えた。北海道の中央部に位置し、雄大な大雪山を背に緑豊かな自然やおいしい地下水に恵まれた町である。

学校は児童数 30 名の複式の小規模校であり、水田に囲まれた地域にある。地域住民は農家を中心であるが、農家の若年層流出・高齢化や住宅地の造成により保護者は会社員がほとんどである。児童は異年齢間の遊びや全校の活動の中で、明るくのびのび、優しく助け合う子ども達に育っている。教育目標を「未来を拓く子」「やさしく かしこく たくましく」、重点目標を「進んで、思いや考えを伝える子」として、その達成のために取り組んでいる。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

- ① 個に理解を深め、一人一人が活躍する指導計画の作成と計画的な実践
- ② 個の実態に応じた指導方法の工夫
- ③ 個の考えを生かした学習過程の工夫

#### (2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 1・2年算数 3・4年社会 5・6年算数
- ② 公開授業Ⅱ 1・2年音楽 3・4年算数 5・6年理科

### 4 所感

東川町立第一小学校は、小規模校で複式である。複式の特性の「わたり」「ずらし」を行い、特に算数科を中心に「進んで、思いや考えを伝える子」の育成を行っている。私自身に複式の授業を参観する機会がめったにないので大変参考になった。

算数科の授業では、課題を解決するために、個に応じた指導方法の工夫として、「ホワイトボード」の利用や「一目で分かる板書」などが印象に残った。また児童の一人一人がしっかり発表したり、ノートに自分の考えを書いたりするなど児童の学習に取り組む態度も素晴らしかった。

レディネステストで個の理解を深め、活躍できる場面を設定するなど個の実態を指導計画に生かしていた。また授業の最後に学習を振り返る場面を設定し発表させていたが、子ども達の学習に対する意欲やがんばりがよくわかった。

授業研究会での助言者から「導入はできるだけ短く」との言葉も印象に残った。参観した授業では課題を解決し、練習問題等で習熟を図る活動を1時間の中にしっかり取り入れていることに授業の質の高さを感じられた。

特に3・4年の授業は、教師の発問・指示、子どもへの対応、教材や教具の工夫とも素晴らしく、1時間で2学年の授業を「わたし」「ずらし」をしながら、授業のねらいに迫っていくのを参観できたことは、30年以上教師をしている私にとって大きな衝撃を受けた授業であった。

## F 分科会

# 発想を豊かに創意工夫し、主体的に活動する子どもの育成

～体育科・運動領域を通して、自分たちの学習を高め合う授業の工夫～

片品村立片品北小学校長 小林 仁史

### 1 会場校 北海道上川郡美瑛町立美進小学校

### 2 地域・学校の概要

美瑛町は北海道のほぼ中央部、旭川市の南側に隣接しており、十勝岳連峰の山麓に広がる丘陵地帯に位置する。現在、全国 39 の自治体・地域が加盟している「日本で最も美しい村」連合の事務局が置かれ、農業と観光を柱に「丘のまちびえい」として多くの観光客の人気を集めている。校区の多くが、水田、畑作、酪農等の農業を営んでいるが、交通利便もよく、農村地帯であっても都会的な感覚が混在している。この地域にある 100 を超える全戸が P T A 会員となっている。

美進小学校は、全校児童数 22 名、複式 3 学級から成る。児童の多くがスクールバスを利用して通学しているため、以前から日常的な体力づくりに力を入れている。また、昭和 61 年より音楽教材として和太鼓演奏を採用し、全校児童で取り組んでいる。「聖台太鼓」と称して、学校独自の活動から地域の活動へと向かいつつあり、地域に根付かせるための取組が進められている。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

- ①体育科年間指導計画の作成、学習過程の工夫、課題解決的な学習と学び方の習得
- ②体育科各領域の指導の工夫、個に応じた指導と場の工夫、交流の工夫
- ③学習段階と評価のあり方、自己評価の工夫、相互評価の工夫、観点別評価規準の作成・活用

#### (2) 公開授業

- ①公開授業Ⅰ 5・6年 体育 「ソフトバレーボール」
- ②公開授業Ⅱ 全校児童 特別活動 「学芸会を成功させよう（聖台太鼓）」

### 4 所感

美進小学校では、児童の実態や新教育課程への対応等、取り組むべき様々な学校課題解決に向け、研究対象を「体育科・運動領域」を窓口にして教育活動全体に視野を広げていった。「主体性」をキーワードとして、学校目標「考える子」、「やさしい子」、「きたえる子」を育てるために、へき地・複式・小規模校の特性を生かした教育活動を展開している。

公開授業Ⅰでは、複式の 5・6 年生 12 名が「ソフトバレーボール」の学習内容を話し合いによって主体的に考え、課題を克服するための方法等を工夫し、助け合いながら練習を行っていた。終末に、自分のめあてについての達成度を評価(自己評価)するとともに、友だちの頑張り度を交換し合うこと(相互評価)で高め合う学習がなされていた。学習過程や、体育科年間指導計画、領域別観点別評価規準は自校においても参考にしたい。

公開授業Ⅱでは、学校の伝統である「聖台太鼓」を、異年齢集団による児童会活動の題材として取り上げた。練習過程や方法等を考える際に児童の考えを取り入れることで、自己実現を図り、望ましい人間関係を築くことを目指している。縦割りグループでの練習では、低学年の児童も高学年の児童にリードされて自信を持って演奏を行っていた。その太鼓演奏の完成度の高さに驚かされた。

今回の研究大会に参加し、会場校ではこれまでの研究から、へき地・複式・小規模校の目指すべき姿を明らかにし、そのための研究を継続・発展させている自信がうかがえた。

## 思いを豊かに表現する子の育成

～一人一人に視点をあてた説明文の読解指導を通して～

中之条町立六合小学校教諭 黒岩 洋一

1 会場校 北海道中富良野町立西中小学校（児童数25名 4学級 職員数9名）

### 2 地域・学校の概要

西中地区は、富良野市の北部、中富良野市街と上富良野市街の中間に位置する。戸数が150戸、人口が約450人で、主に水稲中心の農家が多く、近年はアスパラ、メロン、イチゴなど他種目の作物の栽培が行われている。また、最近ではペンション経営などによる移住者もあり、純然たる農家は減少の傾向にある。地域住民の結束が固く、人情味に厚く、学校教育に対する関心も高い。そのため、教育活動に協力的である。児童数は、昭和22年には200名いたが、その後、徐々に減少し、今は25名の小規模校となっている。児童は、素直で仲良く、元気が良い。知的好奇心が旺盛な子が多く、学習に対しても意欲的である。登下校の祭は、必ず職員室の扉を開けてあいさつをする。また、縦のつながりが強く、休み時間には、全校で遊ぶことが多い。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の仮説

- ①目標を明確にした学習過程で授業を展開することにより、子どもは言語能力を身に付けるであろう。
- ②つながりのある話し合い活動を充実することにより、子どもは進んで自分の思いを伝えることができるであろう。
- ③評価意識を高める場を工夫することにより、子どもは互いに認め合い高めることができるであろう。

#### (2) 研究の内容

- ①つきたい力をはっきりとおさえ、系統的に指導する工夫
- ②相手意識・目的意識を明確にした表現する場の工夫
- ③学ぶ意欲を高める評価と教師の支援の工夫

#### (3) 公開授業

- ①公開授業Ⅰ 学活：全学年 『キラリ☆西中っ子集会』（各学年発表・全校合唱）
- ②公開授業Ⅱ 国語（1年単式、2年単式、3・4年複式、5・6年複式）

### 4 所感

5、6年生の授業では、複式で授業が行われた。見たことがない形式なので非常に興味深かった。教室の前半分が6年生、後ろ半分が5年生であった。複式の学級で有効であったのが、学習リーダーの存在であった。この授業では、始業のあいさつのあと、5年生は先生からの指示を受けて、学習リーダーが5年生の中心になり、前時の復習を始めた。模造紙板書にこれまでの学習経過が書いてあり、掲示してあるので、学習リーダーが模造紙板書を指しながら、前時の学習の復習をしていた。その間に先生は、6年生の学習を進めていた。この学習リーダーは、課題解決場面でも中心になって話し合いを進めていった。よく訓練されているので、とてもスムーズであった。この学習リーダーを育成することは、複式学級でなくとも、児童の自発的な学習を促すために有効であると感じた。本校でも是非取り入れて、個に応じた指導の充実に役立てていきたい。

## H分科会

# 自分の思いや考えをもち、伝え合うことのできる子どもの育成

～自らの言葉で、豊かに表現する子を目指して～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 中村 宏基

1 会場校 富良野市立鳥沼小学校（児童数49名 8学級 職員数13名）

## 2 地域・学校の概要

鳥沼小学校は、富良野市街より約6 km 東方に離れた丘陵地帯に位置し、校舎から市中心部や中富良野町に至る田園風景、富良野盆地をかたどる美しく雄大な山並みが一望できる。

平成11年に新校舎が完成し、平成20年には開校100周年を迎えた学校である。近くには、清冽な湧水を湛えた鳥沼があり、市民の憩いの場となっている。その名の通り、市の鳥に指定されているクマガラの仲間やカケス、エナガ、シジュウカラ、マガモ、コガモなど30種類以上の野鳥や多くの種類の昆虫が生息している。また、ミズバショウやニリンソウ、エンレイソウ、クルマバソウなどの草花やミズナラ、ハンノキ、カツラ、コブシなどの樹木が生い茂っており、鳥沼公園周辺の恵まれた自然は、子どもたちの様々な体験や豊かな情操を育む貴重な教育活動の場にもなっている。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の仮説

- ①課題の提示の方法や個々の能力や特性に応じて指導を工夫することで、自分の思いや考えをもち自らの課題に取り組む子どもに育つであろう。
- ②互いの考えを効果的な交流・発表をする場を工夫することで、より良く伝え合うことのできる子どもが育つであろう。
- ③学習を振り返る場を設定することで、自分の思いや考えを伝え合うことの良さを見つけられる子どもに育つであろう。

### (2) 公開授業

#### <公開授業Ⅰ【国語】>

- |      |                               |    |                  |
|------|-------------------------------|----|------------------|
| 1年   | 「はたらくじどう車」                    | 2年 | 「わにのおじいさんのたからもの」 |
| 3・4年 | 「モチモチの木」「ごんぎつね」               |    |                  |
| 5・6年 | 「世界遺産 白神山地からの提言」「ぼくの世界 きみの世界」 |    |                  |
- 特別支援学級【国語】「とる」

#### <公開授業Ⅱ>

- |                   |             |             |
|-------------------|-------------|-------------|
| 1・2年「秋とあそぼう」【生活科】 | 3・4年「鳥沼探検隊」 | 【総合的な学習の時間】 |
| 5・6年「鳥沼自然教室」      |             | 【総合的な学習の時間】 |

## 4 所感

複式学級における国語科の指導では、「わたり」などの形態が取り入れられた授業を参観した。緻密に計画された2学年分の授業が1教室1教師のもとで行われる様子は、感動的であった。北海道には、へき地の学校が多いため、複式学級における授業法については盛んに研究が行われており、先輩から後輩へそうした指導技術が確実に引き継がれているということにも感動した。

鳥沼小学校は若い先生がとても多く、活気とまとまりのある職員集団であると感じた。また、大会当日の保護者の協力体制や総合的な学習の時間における地域の方々の温かい支援の様子から、へき地小規模校の良さを強く感じた。

## I分科会

# お互いを認め、高め合う人間関係の育成

～学級活動を中心とした取り組みを通して～

片品村立片品中学校教諭

高山 誠

1 会場校 北海道富良野市立山部中学校（生徒数63名 3学級 職員数13名）

## 2 地域・学校の概要

富良野市山部地区は、かつて「文化村」と言われたほど文化活動において全道の先駆的な役割を担ってきた歴史がある。また、スポーツの分野、子供会の活動、学社融合事業等、これら社会教育の面でも熱心な指導者が多く、「すべては子どもたちのために」ということが先駆的に進められてきた地域でもある。そのため、保護者は教育への関心が高く、学校の教育活動やPTA活動に協力的である。平成23年8月末の山部地区の人口は2,215人、世帯数は約976戸である。昭和37年のピーク時には、14学級646名の在籍を数えたが、少子化が進み、現在3学級、生徒数63名である。

生徒は素直で素朴であり、恵まれた自然や環境の中でのびのびと生活し、学校行事や部活動などに一生懸命に取り組んでいる。

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

- ①望ましい人間関係の構築を目指すために、学級活動を中心とした特別活動の充実を図る。
- ②お互いを認め合う活動を積極的に取り入れ、学習効果の充実を図る。

### (2) 公開授業

#### ①公開授業Ⅰ

- 1年【学級活動】「上手に仲間に入ろう」
- 2年【学級活動】「不安や悩みを考えよう」
- 3年【学級活動】「自分を表現しよう」

#### ②公開授業Ⅱ

- 1年【体育】剣道
- 2年【音楽】「日本の伝統音楽の魅力」～「さくらさくら」をアレンジしよう～
- 3年【理科】化学変化とイオン

## 4 所感

公開授業Ⅰでは、学級活動を中心とした人間関係の育成の取り組みの様子を参観した。学級活動においては、グループワークを多く取り入れ、生徒同士で意見を交換する場を設けると共に、「新しい人間関係に入っていくためにはどうしたら良いか」「悩みを抱える友人にどう接するか」「高校入試の面接での受け答え方」など、生徒の将来を見据えたテーマで取り組んでおり参考になった。

公開授業Ⅱでは、教師から必要な知識や技能の指導だけでなく、剣道において、生徒同士で改善点を考える時間を設けたり、音楽ではお互いに意見を交換しながら「さくらさくら」をアレンジしたりと、お互いに高め合う人間関係の工夫を取り入れており、参考になるものだった。

また、研究の検証にQ-Uの結果を参考にし学級の傾向を把握しながら学級指導を実践したり、公開研の際の感想を研究に生かしたりと様々な角度から研究実践を行う様子に大変感銘を受けた。

研究の内容や授業実践の中で、生徒の立場に立ち、また将来を見据え指導している先生方の様子に学ぶところが多くあった。

# 資 料

# I 平成23年度へき地学校資料

## 〈1〉級別へき地学校数

〈( )内は、内数で休校中の学校である。〉

平成23.5.1現在

校種別	級別								A 計 分校	B 県全体 分校	$\frac{A}{B}$
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	14	3	6	7	2	1(1)	0	33 1(1)	333 1(1)	9.9%	
中学校	7	2	2	5	2	1(1)	0	19 1(1)	169 1(1)	11.2%	
計	21	5	8	12	4	2(2)	0	52 2(2)	502 2(2)	10.4%	

## 〈2〉級別へき地本校分校別学校数

〈( )内は、内数で休校中の学校である。〉

平成23.5.1現在

校種別	級別	級別							小計	合計
		県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級		
小学校	本校	14	3	6	7	2	0	0	32	33 (1)
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	
中学校	本校	7	2	2	5	2	0	0	18	19 (1)
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	

## 〈3〉級別へき地学校児童生徒数

平成23.5.1現在

校種別	級別								計 (A)	県全体 (B)	$\frac{A}{B}$
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	1,233	568	403	440	134	0	0	2,778	112,674	2.5%	
中学校	563	356	118	370	65	0	0	1,472	57,383	2.6%	
計	1,796	924	521	810	199	0	0	4,250	170,057	2.5%	

#### 〈4〉郡市別へき地学校数一覧

（ ）内は、内数で休校中の学校である。

平成23. 5. 1現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定					県 準		
					4	3	2	1	準		特	
1	前 橋	小 中	1(1) 1(1)	1(1) 1(1)		1(1) 1(1)						1(1) 1(1)
2	渋 川	1		1						1		1
3	高 崎	2 1		2 1					2 1			2 1
4	安 中	2 1		2 1						2 1		2 1
5	多 野	2 2		2 2			1 2	1				2 2
6	甘 楽	2 1		2 1						2 1		2 1
7	吾 妻	15 9		15 9			1 4	5 4	1 1	3 1	5 4	15 9
8	沼 田	2 2		2 2					1 1		1 1	2 2
9	利 根	6 2		6 2			1 1		2 1		3 1	6 2
総	小 計	32 18	1(1) 1(1)	33(1) 19(1)	0 0	1(1) 1(1)	2 2	7 5	6 2	3 2	14 7	33(1) 19(1)
	計	50	2(2)	52(2)	0	2(2)	4	12	8	5	21	52(2)

#### 〈5〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成23. 5. 1現在

郡市	学 年								学級数計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
渋川市	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
安中市	1	0	1	0	1	0	0	0	3	1
多野郡	0	1	1	0	1	0	0	0	3	2
甘楽郡	2	0	2	0	1	0	0	0	5	2
吾妻郡	1	1	2	0	1	0	0	0	5	3
沼田市	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
利根郡	1	2	2	1	1	0	0	0	7	4
計	5	6	8	1	5	0	0	0	25	14



### 〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移(小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計 (A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6

## II 平成23年度 群馬県へき地教育振興会役員

平成23.5.1現在

会長 星野巳喜雄（沼田：沼田市長）  
 副会長 宮前鋹十郎（多野：神流町長） 谷川 猛（吾妻：中之条町教育委員長）  
 千明 金造（利根：片品村長）  
 理事 佐藤 博之（前橋：前橋市教育長） 小林巳喜夫（渋川：渋川市教育長）  
 飯野 眞幸（高崎：高崎市教育長） 中澤 四郎（安中：安中市教育長）  
 田村 正利（多野：上野村教育長） 高木 成雄（甘楽：下仁田町教育長）  
 谷川 猛（吾妻：中之条町教育委員長） 星野巳喜雄（沼田：沼田市長）  
 千明 金造（利根：片品村長）

### 評議員

郡市	町村	評議員
前橋市		佐藤 博之（教育長）
渋川市		小林 巳喜夫（教育長）
高崎市		飯野 眞幸（教育長）
安中市		中澤 四郎（教育長）
多野郡	上野村	田村 正利（教育長）
	神流町	齋藤 義久（教育長）
甘楽郡	下仁田町	高木 成雄（教育長）
	南牧村	土屋 東一郎（教育長）
	甘楽町	柴山 豊（教育長）
吾妻郡	中之条町	唐澤 正明（教育長）
	長野原町	黒岩 文夫（教育長）
	嬭恋村	萩原 良一（教育長）
	草津町	浅香 勝（教育長）
	高山村	高平 秀三（教育長）
	東吾妻町	高橋 啓一（教育長）
沼田市		津久井 勲（教育長）
利根郡	片品村	星野 準一（教育長）
	昭和村	板橋 芳郎（教育長）
	みなかみ町	牧野 堯彦（教育長）

監事 黒岩 文夫（吾妻：長野原町教育長） 星野 準一（利根：片品村教育長）

## 平成23年度 へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局書記・会計 中村 宏基・春田 晋

郡市町村	連絡先	事務担当者	教育事務所担当指導主事
前橋市	前橋市教育委員会	吉野 雄一郎	後藤 弘史
渋川市	渋川市教育委員会	野本 泉	
高崎市	高崎市教育委員会	中澤 康治	井上 高広
安中市	安中市教育委員会	萩原 宏明	
上野村	上野村教育委員会	今井 孝雄	
神流町	神流町教育委員会	新井 岩男	小池 裕生
甘楽郡	西部教育事務所	塚越 真由美	
吾妻郡	吾妻教育事務所	臼井 淳一	中島 潔
沼田市	沼田市教育委員会	大竹 敏之	
利根郡	利根教育事務所	佐藤 芳雄	

### Ⅲ 平成23年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

#### 役員

- ・理事長 水出 正一(吾妻：孀恋村立田代小学校)
- ・副理事長 原田 和之(高崎：高崎市立倉渕中学校)
- 富澤 辰男(吾妻：東吾妻町立坂上中学校)
- 吉野 隆哉(利根：片品村立片品小学校)
- ・常任理事 飯出 哲夫(多野：上野村立上野中学校)
- 平賀 信夫(利根：片品村立片品中学校)
- ・事務局長 乾 姫志美(吾妻：孀恋村立西中学校)
- ・会計部長 高橋 俊昭(吾妻：中之条町立六合小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地（電話番号）	備考
A 前橋 ・高崎 ・安中 ・多野 ・甘楽	原田 和之	高崎市立倉渕中学校	高崎市倉渕町215-1 (027-378-3214)	副理事長
	飯出 哲夫	上野村立上野中学校	多野郡上野村檜原 113 (0274-59-2040)	常任理事 研究部長
	有阪 俊人	安中市立坂本小学校	安中市松井田町坂本1323 (027-395-2428)	
	服部 幸雄	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向1045 (0274-87-2501)	
	伊勢川 聰	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田314-1 (027-378-3218)	
B 吾妻	水出 正一	孀恋村立田代小学校	吾妻郡孀恋村田代438 (0279-98-0042)	理事長
	富澤 辰男	東吾妻町立坂上中学校	吾妻郡東吾妻町本宿389 (0279-69-2227)	副理事長 調査部長
	乾 姫志美	孀恋村立西中学校	吾妻郡孀恋村大笹1654-2 (0279-96-0009)	事務局長

B 吾 妻	高橋 通泰	長野原町立北軽井沢小学校	吾妻郡長野原町北軽井沢1924 (0279-84-3010)	板木担当
	高橋 俊昭	中之条町立六合小学校	吾妻郡中之条町小雨599-1 (0279-95-3571)	会計部長
C 利 根 ・ 沼 田 ・ 渋 川	吉野 隆哉	片品村立片品小学校	利根郡片品村鎌田3952 (0278-58-3126)	副理事長 総務部長
	平賀 信夫	片品村立片品中学校	利根郡片品村鎌田4480 (0278-58-2019)	常任理事
	青木 美穂子	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村糸井5455-354 (0278-24-7166)	
	片山 雅資	片品村立武尊根小学校	利根郡片品村摺淵307 (0278-58-2043)	
	西山 和子	渋川市立南雲小学校	渋川市赤城町長井小川田1435 (0279-56-2911)	
「板木」 実務 担当				

#### IV 平成23年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾妻東部	中澤 章文	中之条町立中之条小学校内	〒377-0423 中之条町大字伊勢町1035-1 (0279-75-2130)
吾妻西部	橋詰 忠明	嬭恋村嬭恋会館内	〒377-1526 嬭恋村大字三原691 (0279-80-2330)
利 根	高橋 和秀	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

## V 平成23度へき地教育功労者

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
1	くろさわ うきよう 黒澤 右京 上野村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に上野村立上野中学校校長として退職するまで、多野郡内のへき地学校に29年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	ふくはら としひで 福原 敏秀 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に中之条町立沢田小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	くまがわ や え こ 熊川 八重子 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に草津町立草津中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に38年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	たかはし はる こ 高橋 治子 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に高山村立高山小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	たむら こういち 田村 巧一 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に東吾妻町立太田中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	なかがわ かずのり 中澤 和則 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に東吾妻町立坂上小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	たかはし きよみ 高橋 きよみ 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に沼田市立薄根小学校教諭として退職するまで、利根郡内のへき地学校に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	たけうち ゆきこ 竹内 由紀子 片品村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成23年3月に片品村立片品北小学校教諭として退職するまで、利根郡内のへき地学校に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

## あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第60集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来とぎれることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしております。

群馬県においても少子・高齢化、人口の都市部への集中は顕著であり、昨年度末に閉校になった学校は6校を数えます。最大で数百人の児童・生徒数を有した学校が、閉校の年には数十人規模となり、中には児童数一桁となった学校もあります。閉校は、児童・生徒はもちろん、家庭や地域にとっても大きな問題であり、時代の流れとはいえ正に苦渋の選択であったことがうかがえます。今年度末にも統合となる学校があり、へき地教育連盟の加盟校も年々減少の傾向にあります。

そのような状況の中でも、各へき地校では、少人数の利点を生かしたきめ細かな指導、恵まれた自然環境のもとでの体験活動等、地域に根差した特色ある教育活動が日々実践されております。この第60集にも、へき地校ならではの良さを生かした教育実践が多数掲載されており、各校において明日からの教育実践に生かしていただければ幸いです。

今年度も、ご多用の中にもかかわらず、へき地教育に邁進している多くの方々から、原稿執筆・編集等ご協力を頂きました。おかげさまで、無事平成23年度のへき地教育の記録を残すことができました。心よりお礼申し上げます。

皆様の協力によりできあがった「板木」第60集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの人に活用されることを願っております。

なお、この第60集の編集に携わったメンバーは、次のとおりです。

群馬県教育委員会	堀澤 勝 (義務教育課長)
	黒澤 英樹 (義務教育課 補佐)
	中村 宏基 (義務教育課 指導係 指導主事)
	春田 晋 (義務教育課 指導係 指導主事)
群馬県へき地教育研究連盟	
	水出 正一 (県へき連 常任理事・理事長)
	原田 和之 (県へき連 常任理事・副理事長)
	富澤 辰男 (県へき連 常任理事・副理事長・調査部長)
	吉野 隆哉 (県へき連 常任理事・副理事長・総務部長)
	飯出 哲夫 (県へき連 常任理事・研究部長)
	乾 姫志美 (県へき連 常任理事・事務局長)
	高橋 俊昭 (県へき連 常任理事・会計部長)
	平賀 信夫 (県へき連 常任理事)
	有阪 俊人 (県へき連 理事)
	服部 幸雄 (県へき連 理事)
	伊勢川 聰 (県へき連 理事)
	青木美穂子 (県へき連 理事)
	片山 雅資 (県へき連 理事)
	西山 和子 (県へき連 理事)
	高橋 通泰 (県へき連 理事・「板木」担当)















